

5 試験研究

5.1 担当・チームの活動概要

(1)大気環境担当

埼玉県は首都圏の北側に位置し、大気汚染物質の固定及び移動発生源の影響を強く受ける地域である。さらに、その地理的条件により、光化学大気汚染も著しい。最近の諸施策により、従来環境基準達成率が低かった二酸化窒素や浮遊粒子状物質の達成率が向上し、平成19年度は観測史上初めて二酸化窒素と浮遊粒子状物質がともに環境基準を達成し、20年度も継続している。しかし、光化学オキシダントの環境基準の達成率は0%の状態が続いており、光化学スモッグ注意報の発令日数は全国でも常に上位である。また、21年9月には新たな大気環境基準として微小粒子状物質が制定され、光化学オキシダントのほか、この対応も求められている。一方、近年は地域的な環境問題だけでなく、地球規模の環境問題が懸念されており、大気分野では地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨が注目されている。

大気環境担当の活動は、埼玉県というフィールドを対象に環境モニタリングを行い、大気汚染物質や地球環境問題の原因物質について、現況把握、特性解析、行政施策効果の評価を行うことである。また、環境制御という観点から、大気汚染物質の新規除去装置の開発のほか、既存の排出低減策の整理とその効果の評価も対象となる。埼玉県5ヶ年計画(ゆとりとチャンスの埼玉プラン)と環境基本計画に掲げる大気環境保全施策の指標として、光化学スモッグの原因物質である揮発性有機化合物の環境濃度低下が設定されている。これは、この取組によって、光化学オキシダントやそれに関連して増加する微小粒子状物質の低減を目指すものである。このような状況の下、大気環境担当では、独自の自主研究課題として、あるいは環境部青空再生課等と連携した行政令達課題として、光化学大気汚染を重点的な対象として、その原因物質である揮発性有機化合物や窒素酸化物の排出削減及び環境動態、生成物質であるオゾンや微小粒子状物質の環境動態、さらに植物影響までを総合的に調査研究している。地球環境に関しては、地球温暖化やオゾン層破壊の原因物質の長期モニタリングを継続するとともに、酸性雨の構成化学成分の動態解析を続けている。地球温暖化とヒートアイランド現象については行政からの要請に応え、気温の詳細調査や各種情報の整理などを行っている。また、環境基本計画に掲げられている重点取組施策である石綿の飛散防止に関しても、監視の面で行政支援している。このほか、行政令達課題として、有害大気汚染物質、各種化学物質等のモニタリングを行うとともに、県や市町村の行政現場での案件解決のための支援を行っている。これらの研究遂行のため、国立環境研究所、埼玉大学、早稲田大学、近隣の地方環境研究所、民間企業等と連携している。

(2)水環境担当

埼玉県は、県の面積の約3.9%を河川が占めており、その割合は都道府県の中で一位である。河川環境については、1970年代から急激な都市化の進行に伴い水質汚濁が大きな問題になったが、水質規制の強化や水処理技術の進歩、下水道の整備及び合併浄化槽の普及等により、汚濁状況は着実に改善してきた。そこで、水質のみならず、豊かな環境を再生し、県民の誰もが川に愛着をもち、ふる里を実感できるよう、県では平成19年11月に「川の国埼玉 川の再生基本方針」を定め、「川の国埼玉」をキャッチフレーズに様々な事業に取り組んでいる。

水環境担当では、従来からの工場排水クロスチェック及び公共用水域調査等の行政令達事業、自主研究及び外部資金を活用した研究に加えて、平成20年度から2カ年で「里川再生テクノロジー開発普及事業」を実施した。この事業は、センターが開発した浄化技術や蓄積してきた知見・情報を、県の重点課題である川の再生に活用するもので、埼玉県第2期科学技術基本計画の安心安全ビジョンにおける施策の方向性で示される環境技術の普及支援に対応している。その一つが、県の魚“ムサシトミヨ”が生息する元荒川最上流部で行っているエコテクノロジーによる水質浄化実験である。一昨年度実施した高吸着能木炭による生活排水浄化手法が、水環境課“木炭による地域連携河川浄化事業”に活用され、昨年度は太陽光発電による曝気等を導入したハイブリッド浄化実験を実施した。その他、水環境関連情報をデータベースに集約して情報発信をする里川再生クリニックホームページを開設した。

研究事業では、環境基本計画の施策展開として掲げられる“河川等の環境の保全、創造”に対応した課題を中心に取り組んでいる。水環境の汚濁特性に関する研究として、紫外線吸収剤の生態リスク評価、河川の発泡・ぎらつき現象の解明、汚濁負荷解析モデルの開発等を行っている。水環境の修復及び水処理技術に関する研究として、大型二枚貝の多元的活用、生活系排水の簡易・効率的な水処理技術の開発、下水処理過程での温室効果ガス発生抑制の検討を行っている。これら研究を推進するために、大学、企業、研究機関と連携する他、外部資金の獲得を積極的に行い、国内及び海外での学会等で研究成果を公表している。

(3) 廃棄物管理担当

廃棄物管理担当では、産業廃棄物及び一般廃棄物について国や埼玉県が推進する循環型社会形成を支援するとともに、埼玉県が直面する廃棄物の諸問題を解決するための調査・研究を実施している。廃棄物の中間処理、最終処分、再資源化で起こりうる、人を始めとする生物や環境に対する支障を限りなく低減化することや不法投棄廃棄物やそれにより発生する様々な支障の除去を、産業廃棄物指導課、資源循環推進課、環境整備センター及び各環境管理事務所と連携を図りながら行っている。

近年、廃棄物の焼却処理や破碎選別処理、そして埋立処分について安全・安心がさらに求められており、そのための調査・研究に軸足が移りつつある。最近では、埋立地から漏出する可能性の高い化学物質を安全で安心に処理するための埋立資材の開発を始め、環境浄化を見据えた工学的な要素を取り込んだ研究を行っている。また、再資源化についても埼玉県の地域性を考慮して調査・研究を行っている。首都圏に位置する埼玉県では、不法投棄が後を絶たないが、それによる生活環境保全上の支障や廃棄物の除去方法、さらに有害物質の汚染範囲を現場で迅速に推定するための技術開発を積極的に行っている。

文部科学省や環境省からの外部資金による研究を以前から行っており、現在、建設廃棄物の高度選別技術の開発や物理探査技術適用による最終処分場の適正管理に関する研究を当センター単独あるいは国立環境研究所等と共同で実施している。

国際貢献としては、環境国際貢献プロジェクトによるタイ国への技術支援を行ってきた。

今年度、廃棄物管理担当が行った自主研究のうち、「PRBシステムを応用した廃棄物最終処分場浸出水の場内浄化システムの構築」「廃棄物最終処分場における地球温暖化ガスの発生量に関する研究」は、最終処分に関するものである。また、「廃棄物処理における省エネと温室効果ガスの発生抑制」では、廃棄物処理による温室効果ガスの排出を削減するための方向性について研究しようとするものである。これらの研究は、埼玉県の廃棄物処理政策に対して提言が行えるように意識した内容となっている。また、行政令達業務は、最終処分場の管理に関する業務、不法投棄や産業廃棄物の山についての対策等が中心となっている。

(4) 化学物質担当

埼玉県環境基本計画では「恵み豊かで安心・安全な地域社会の実現」のため、展開すべき施策の一つとして「有害化学物質対策の推進」を掲げている。化学物質担当では、ダイオキシン類や内分泌かく乱化学物質(環境ホルモン)などの化学物質に関する情報収集、環境濃度レベルの把握、計測技術や処理技術の改良・開発に関する調査研究を実施している。しかし、今後は毒性や環境残留性の高い化学物質による汚染が懸念されるため、環境中の濃度レベルの把握、動態の解明、リスク評価などを行うことも重要と考えられる。また、新たに注目される環境汚染物質を高精度で測定する方法の開発や、化学物質による環境汚染解消のため、低コストで省エネ型浄化技術などの開発が必要である。

平成21年度の自主研究事業は、高い環境残留性が懸念されている有機フッ素化合物PFOS、PFOA及びそれらの前駆物質について、埼玉県内の河川水の実態を把握するための研究を実施した。

行政令達事業は、定例的業務としてダイオキシン類発生源調査(排ガス、燃えがら、排水)、ダイオキシン類環境調査(大気、河川水、土壌)、県立学校の小型焼却炉撤去に係るダイオキシン類調査、工業団地周辺における化学物質調査を行った。また、野鳥の不審死の原因を調べるため、農薬などの分析検査も実施した。さらに、環境部各課や各環境管理事務所が委託しているダイオキシン類行政検査について、書類審査などによる精度管理を行った。

平成20年度途中から、JSPS海外特別研究員として中国・浙江大学の林琦准教授を迎え、「バイオ燃料用資源植物を活用した汚染土壌の有効利用と修復システムの構築」に関する共同研究を実施した。

環境国際貢献プロジェクト事業のうち、「太湖の汚染底泥の無害化・資源化事業」の支援事業として、上海交通大学との共同研究を行い、太湖の底質試料とそれを無害化・資源化処理した試料のダイオキシン類を分析した。また、同支援事業の一環として、太湖を水源とする上海市内の蘇州河と黄浦江流域(揚子江デルタ)の内分泌かく乱化学物質調査を上海大学と共同で行った。

(5) 地質地盤・騒音担当

地質地盤・騒音担当では、大きく分けて次の3つの業務を行っている。すなわち、1)地質地盤情報の収集・管理・解析、2)地質地盤被害に関する調査・研究、3)騒音振動公害の防止対策に関する調査・研究、である。1)については、県が保有する地下情報(ボーリングデータ)をデータベース化した「地質地盤インフォメーションシステム」を運用し、県土整備部等と連携して同システムに搭載する資料の収集・管理を行うとともに、関係課所への情報提供を行っている。また、地下探査によって独自に情報

を収集しデータを拡充するとともに、地下の構造情報を用いた詳細解析を施して地域ごとの環境特性(例えば地震時の揺れ方、自然界由来の重金属の状況)の相違を明らかにするなどデータの高付加価値化を図っている。2)については、地下水汚染や地震など、その地域の地質地盤と密接に関連する問題に対処するために、地下情報の取得に必要な物理探査技術について、その適用方法の検討や新たな探査技術の開発などに取り組んでいる。3)については、騒音振動公害の未然防止を目的とした新たな対策技術の開発や、水環境課及び市町村と連携して苦情を解決するための調査・技術指導などを行っている。

近年、地球温暖化問題に関連し、低炭素社会の実現に向けて石油等の化石燃料から、太陽光や地熱等の再生可能エネルギーへの転換が叫ばれている。そこで平成21年度から、新たな研究課題として再生可能エネルギーのひとつである低温地熱資源に関する情報の収集整備及び地域特性解析に関する研究を開始した。平成21年度は、この研究の一環として県内の地下熱環境を把握するために、県内の地盤沈下観測井を対象に地下深度方向の温度分布の実測調査を行った。その結果、すべての調査地点において、地表面付近での温度上昇傾向が確認された。これは地下浅層の温度が気温や地表面温度と密接に関係し、地球温暖化による気温上昇の影響が地下温度にまで及ぶことを意味している。一部の観測井を対象に行った詳細解析では、過去の地表面の温度上昇の影響が地下数十メートルにまで及んでいることが明らかとなった。今後もこうした地下の熱環境の実態把握に努めるとともに、地域ごとの地中熱利用特性などについて検討していく予定である。

(6) 自然環境担当

近年の僅か数十年間で急速に地球環境が劣化した。人類生存のための国際的規範となった「持続可能な社会」の実現には地域生態系の保全が不可欠であり、首都圏埼玉の重要な責務でもある。自然環境担当では、持続可能な社会の基盤となる健全で多様な生態系の保全を目指して、以下の研究分野に取り組んでいる。

①生物多様性の現況、変化の把握、②動植物に及ぼす開発や汚染の影響評価、③生物的自然の持つ環境保全機能評価、④生物の保全、環境制御手法

これらの課題は全て埼玉県環境基本計画で「恵み豊かで安心・安全な地域社会の実現」、「持続可能な循環型社会の構築」の項に位置づけられており、関連する自然環境課、温暖化対策課、青空再生課、水辺再生課と、令達事業を受託すること等で連携している。

平成21年度は自主研究課題として、「埼玉県における光化学オキシダントの植物影響把握法の確立」、「埼玉県における魚類等の多様性モニタリング調査」、「自然環境データベースのGIS(地理情報システム)による構築・運用－野生生物生息条件の空間的評価－」、「希少野生動植物の遺伝的多様性評価に関する研究－ムサシトミヨのDNAマーカーの開発－」の4課題に取り組んだ。

また、行政令達事業としては、「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」による指定種(ムサシトミヨ、ミヤマスカシユリ、サワトラノオ、デンジソウ、ソボツチスガリ、アカハライモリ等)を保全する「希少野生生物保護事業」、奥秩父の気象観測モニタリングとシカの食害等を調査する「野生生物保護事業」、緑地と河川のクールスポット効果を評価する「ヒートアイランド現象対策事業」、光化学スモッグの植物影響を調査する「大気汚染常時監視運営管理事業」、「小山川・元小山川清流ルネッサンスⅡ事業効果を評価する魚類調査」、「川の国埼玉「水辺再生100プラン事業効果を評価する男堀川魚類調査」の6課題に取り組んだ。さらに、「深夜化するライフスタイル・ビジネススタイルの見直しによる二酸化炭素削減効果の試算」、「コンビニエンスストア消費電力実態調査報告書」を作成した。

他機関との連携では、国立環境研究所とのC型共同研究として「オゾンによる植物被害とその分子的メカニズムに関する研究」、「ブナ林衰退地域における総合植生モニタリング手法の開発」の2課題及び電力中央研究所が中心となって進めている環境省地球環境研究総合推進費事業「気温とオゾン濃度上昇が水稻の生産性におよぼす複合影響評価と適応方策に関する研究」にそれぞれ取り組んだ。

さらに、県民に対する環境学習支援として、県民参加の環境調査や地球温暖化問題等の講演、小学校等での総合学習支援、動植物観察会の講師等に積極的に取り組み、平成21年度はこれらを総計で50回以上実施した。

(7) 土壌・地下水汚染対策チーム

土壌及び地下水の汚染は、今日の最も深刻な環境問題の一つであり、その対策には多分野の専門性が必要となる。そこで当センターでは、開設当時からグループ横断的な組織として土壌・地下水汚染対策チームを設け、調査研究に取り組んでいる。また、県内では、開発行為等により過去の汚染が発覚するケースが頻繁にあることから、部内各箇所等との連携のほか、土木・建設・農林関係機関など幅広く行政支援を行うこととしている。

チーム研究員の構成は、水環境担当(2名)、廃棄物管理担当(1名)、化学物質担当(1名)及び地質地盤・騒音担当(3名)の計7名であり、各々の専門知識や技術を相互活用した事業を進めている。これまで、従来は困難であった土壌中重金属類

のオンサイト簡易迅速分析法を機器メーカーとの共同研究により開発し、県内外の計量証明事業者や民間企業に技術移転を行った。また、現場において掘削を伴わずに地上から汚染状況を推定する物理探査手法等についても検討を行ってきた。土壌・地下水汚染対策は、長期間に渡ることや膨大な費用を要するなど課題が多いため、効率や経済性を重視した調査解析手法の適用を目指している。

平成21年度の自主研究では沖積堆積物からの重金属類の溶出特性について検討した。自然地層からのヒ素等の重金属類の溶出については、地下水常時監視を通じて様々な地域で検出されており、本県において重要な懸案事項といえる。令達事業では、VOCsやPCB等による土壌・地下水汚染に関してボーリング調査(掘削自体は業者委託)、コア及び地下水の各種分析、土地利用履歴解析、地下水流動解析、土壌スクリーニング調査等を実施し、技術的なサポートを行った。地下水汚染については、的確な汚染メカニズムの解明とモニタリングの長期的継続が必要であることから、当チームが行政部門に対するコンサルタント的役割も担っている。一方、県では土壌汚染の早期発見を目的とした事業所内の土壌簡易分析調査を行っている。そこで、調査を実施する環境管理事務所職員等を対象に、センターにおいて事前講習会を開催し、技術指導等を行った。その他、事務所からの依頼により、河岸段丘地域における地下水流動解析、VOCsによる浅層地下水調査等を実施した。

5.2 試験研究事業

5.2.1 自主研究

テーマ名・期間	目的	担当者	概要
地球温暖化物質の精密モニタリングに関する研究（平成12年度～）	温室効果ガスである大気中の二酸化炭素をWMO標準ガスを基準として観測し、濃度の経年変化や季節変化、局地的な汚染の把握、対策の効果等について検討する。また、大気中のオゾン濃度を観測し、濃度の経年変化や季節変化、局地的な汚染の把握等について検討する。	武藤洋介	101頁
環境基準の設定を踏まえた大気中微小粒子状物質の特性解明（平成21～24年度）	平成21年9月、大気中微小粒子状物質(PM2.5)の環境基準値が告示された。本研究では、PM2.5の標準測定法に基づいた測定を実施し、騎西地域のPM2.5の実態を明らかにするとともに、これまで継続してきたPM2.5の1週間単位の測定との比較を行い、過去の測定値の再評価を行う。また、国内の測定事例の非常に少ない、PM1.0についても連続測定を継続する。	米持真一 梅沢夏実	102頁
植物保護のための光化学オキシダント(オゾン)環境基準の提言に向けた基礎的研究（平成19～21年度）	埼玉県における現状レベルのオゾン濃度がどの程度の悪影響を農作物や樹木に与えているのか、また、植物保護の観点から考えた場合の適正な(許容できる)オゾン濃度はどの程度であるかについて検討・評価し、光化学オキシダント(オゾン)削減にむけた目標値を提唱し、「埼玉県における光化学オキシダントの植物影響危険度評価マップ(仮称)」等を作成し、大気汚染対策に活用できる情報を提供する。	米倉哲志	103頁
連続稼働型デニューダ開発のための基礎的検討（平成20～21年度）	デニューダは粒子状物質のうち二次粒子のガス状前駆物質の有効な測定方法であるが、高時間分解能の観測や、長期間にわたる観測には不向きであった。本研究では、酸化チタンの超親水化作用に着目し、これを利用することで、従来型デニューダの課題を解決した、新しいデニューダを開発することを目的とする。	米持真一 松本利恵	104頁
湖沼における大型二枚貝の多元的活用に関する基礎的研究 – 二枚貝の安定供給化の検討 –（平成19～21年度）	県内ため池に生息するドブガイを例として、稀少二枚貝の保護やバイオモニタリングなど様々な環境分野において活用するための第一段階として、二枚貝の人為的な安定供給化を目標とした二枚貝の餌および給餌条件について明らかにする。	田中仁志	105頁
湧泉の立地特性と水質形成に関する基礎的研究（平成19～21年度）	湧出タイプ等が異なる県内の湧泉を対象に、地形・地質及び土地利用などの地域環境要因と湧水の水質及び水量の関係を把握し、湧出点並びに湧出後における水質形成の要因について明らかにする。	高橋基之 田中仁志 石山高 八戸昭一 佐坂公規	106頁
埼玉県内に生息する魚介類に対する環境中の紫外線吸収剤の生態リスク評価及びヒトの暴露量に関する研究（平成20～22年度）	日焼け止めや高分子製品の劣化防止のため、紫外線吸収剤が使用されているが、近年になり、河川水や河川底質、水生生物中への残留や蓄積性が懸念され始めた。本研究では環境中の紫外線吸収剤の分析方法を確立するとともに、県内の水域における濃度の把握及び水生生物への蓄積状況を把握する。さらに、これらの結果を用いて水生生物へのリスク評価やヒトの食物を介した経口摂取量の推定を行う。	亀田豊 金澤光	107頁

テーマ名・期間	目的	担当者	概要
水環境診断ツールを活用した河川流域汚濁負荷解析モデルの構築 (平成20～22年度)	本研究では栄養塩類等の管理を視野に入れた水環境関連データのデータベース構築や河川汚濁負荷解析を実施するとともに、River Water Quality Model No.1を基礎とした河川水質モデルを構築することにより、汚濁原因の解明と水環境関連施策を講じた場合の水質改善効果の予測を可能とする。	柿本貴志 高橋基之 嶋田知英	108頁
活性汚泥モデルの活用による下水処理プロセスからの温室効果ガス発生抑制の検討 (平成21～23年度)	温室効果ガスの発生抑制が課題とされる下水処理施設において、活性汚泥モデルを適用する。これにより、下水処理プロセスの物質反応を把握すると同時に、削減可能なエネルギー量を算定し、それに伴う温室効果ガスの発生抑制効果を検討する。	見島伊織 木持謙 柿本貴志	109頁
河川・池沼表面水の水質汚濁特性評価と発泡・ぎらつき現象の原因解明 (平成21～23年度)	親水性の観点から問題となる発泡・ぎらつき現象の発生状況を調査する。ぎらつき現象の原因判別手法の構築を行い、自然由来の物質が原因と推測される河川での発泡現象の解明を行う。	池田和弘 見島伊織 柿本貴志 高橋基之	110頁
PRBシステムを応用した廃棄物最終処分浸出水の場内浄化システムの構築 (平成19～23年度)	大規模埋立実験装置を用いて、PRBによる浸出水の場内浄化の実験を行う。また、埋立層内部の化学物質挙動を解明し、新しいコンセプトによる最終処分の設計案を構築する。	渡辺洋一 川寄幹生 磯部友護	111頁
廃棄物最終処分場における地球温暖化ガスの発生量に関する研究 (平成20～22年度)	埼玉県内の廃棄物最終処分場から放出される温室効果ガス量の測定方法を検討し、実測値からガス放出量を概算する。また、処分場廃止に係るガスモニタリング方法を提案する。	長森正尚 渡辺洋一	112頁
廃棄物処理における省エネと温室効果ガスの発生抑制 (平成21～23年度)	一般廃棄物処理の現状と課題を抽出するとともに、今後のごみ処理広域化におけるエネルギー投入・コスト・温室効果ガス排出量削減の3つの視点から、望ましい循環型社会システムを提示することを目的とする。	倉田泰人 川寄幹生 長谷隆仁 鈴木和将	113頁
県内の河川におけるPFOS、PFOAとその前駆物質の汚染実態の把握 (平成20～22年度)	有機フッ素化合物(PFOS、PFOA)及びそれらの前駆物質の分析方法を確立し、県内の河川における濃度レベルを把握する。さらに、それらの化学物質の由来を明らかにする。	茂木守 野尻喜好 細野繁雄	114頁
環境被害の軽減を目的とした地域地震動特性の解析と詳細情報の整備 (平成20～22年度)	埼玉県内の地域地盤ごとの地震動特性を明らかにするために、県内の地下構造モデルを用いた解析を行う。また、県内の地震観測記録を用いて、地域ごとの揺れ方の相違について検討を行う。	白石英孝 佐坂公規 八戸昭一 濱元栄起	115頁
地質地盤インフォメーションシステムの運用と地域環境特性の解析 —地質地盤汚染評価支援システムの構築— (平成19～22年度)	本研究では地質地盤インフォメーションシステムに土壌や地質中の重金属含有量等に関するデータベース機能を拡充し、環境行政に有用なシステムの実現可能性を検討した。今年度は、特に、波長分散型蛍光X線分析による分析条件の最適化を実施した。	八戸昭一 石山高 佐坂公規 濱元栄起 高橋基之 白石英孝	116頁
低温地熱資源整備を目的とした地中熱利用地域特性解析 (平成21～23年度)	再生可能エネルギーである地中熱を利用する際に必要な低温地熱資源に関する基礎資料を整備するために、テストエリア内の地下構造や熱伝導率を調査収集するとともに、地域特性解析を実施する。	濱元栄起 佐坂公規 八戸昭一 白石英孝	117頁

テーマ名・期間	目的	担当者	概要
埼玉県における魚類等の多様性モニタリング調査 (平成17～21年度)	自然との「共生」を目指すために不可欠な、生物多様性保全の基礎資料とするため、県内全域の魚類等水生生物の生息実態、生息分布調査を行っている。	金澤光 増富祐司 嶋田知英 三輪誠	118頁
埼玉県における光化学オキシダントの植物影響把握法の確立 (平成17～21年度)	近年、地球規模で対流圏オゾン濃度が上昇している。特に埼玉県はオゾンの高濃度県であり、その影響が危惧されている。しかしながら、県内のオゾンによる植物被害の実態は十分に把握できておらず、県民にも、その実態は知られていない。そこで、県民参加で被害調査を実施し、実態把握とともに、影響把握方法の検討を行うものである。	三輪誠 嶋田知英 増富祐司 金澤光	119頁
希少野生動植物の遺伝的多様性評価に関する研究 ―ムサシトミヨのDNAマーカーの開発― (平成20～22年度)	絶滅危惧動物ムサシトミヨの保全策を講じるため、その基礎的情報のひとつとして、生息地における遺伝的多様性の現状把握は不可欠である。しかしながら、現段階では、その把握手法を持ち合わせていないのが実状である。そこで、ムサシトミヨの遺伝的多様性を解析するためのDNAマーカーを開発するとともに、生息地におけるその現状把握を試みるものである。	三輪誠 金澤光 嶋田知英 増富祐司	120頁
自然環境データベースのGISによる構築・運用 ―野生生物生息条件の空間的評価― (平成19～21年度)	地形や土地利用などに関する基盤情報や、野生生物・大気・水質などの環境情報を収集したGIS自然環境データベースを構築するとともに、野生生物生息条件の空間的評価を行うものである。	嶋田知英 三輪誠 金澤光	121頁
ムサシトミヨ生息域における生活雑排水を対象とした簡易・効率的な水処理技術の開発と実証 (平成20～22年度)	県の魚ムサシトミヨが生息する熊谷市内の元荒川源流域は、周辺地域の宅地化の進行により、生活排水を中心とした水質汚濁が進行している。本研究では、ムサシトミヨ生息のために満足すべき水質等について検討するとともに、生息域において、生活雑排水を主な対象とし、傾斜土槽法等を活用した簡易・効率的な水処理技術の開発と実証試験を行う。	木持謙 金澤光 高橋基之 王効拳 亀田豊 柿本貴志	122頁
沖積堆積物からの重金属類溶出特性の解析と海成堆積物の簡易判別法の開発 (平成21～23年度)	埼玉県南東部地域に広く分布する海成堆積物を対象として、海成堆積物からの重金属類溶出特性の把握、海成堆積物の簡易迅速な判別法の開発、重金属類溶出抑制法などを検討する。	石山高 佐坂公規 長森正尚 見島伊織 八戸昭一	123頁

5.2.2 行政令達

事業名	目的	担当	関係課	概要
有害大気汚染物質等モニタリング調査事業 (酸性雨調査)	大気降下物による汚染の実態とその影響を把握し、被害の未然防止を図るための基礎資料を得ることを目的とする。	大気環境担当	青空再生課	125頁
有害大気汚染物質等モニタリング調査事業 (地球環境モニタリング調査)	地球環境問題に係る調査の一環として、大気中の原因物質の現況と傾向を継続的に把握し、対策効果の検証を行うための資料とする。	大気環境担当	青空再生課	125頁
有害大気汚染物質等モニタリング調査事業 (有害大気汚染物質調査)	有害大気汚染物質による健康被害を未然に防止するために、大気汚染の状況を監視するモニタリングを実施する。	大気環境担当	青空再生課	126頁

事業名	目的	担当	関係課	概要
有害大気汚染物質等モニタリング調査事業（炭化水素類組成調査）	近年増加傾向である光化学オキシダントの発生源要因を精査するために、原因物質である炭化水素類の地点別、時間帯別の成分濃度を把握する。	大気環境担当	青空再生課	126頁
NOx・PM総量削減調査事業	PM2.5の二次粒子の生成において寄与割合の大きい前駆物質を特定し、生成抑制対策の基礎データを得ることを目的とする。	大気環境担当	青空再生課	127頁
工場・事業場大気規制事業	工場、事業場から排出されるばい煙等による大気汚染を防止するため、固定発生源における揮発性有機化合物等の測定を行う。また、大気関係公害の苦情処理に必要な調査及び指導等を行う。	大気環境担当	青空再生課	127頁
大気環境石綿（アスベスト）対策事業	石綿による環境汚染を防止し、県民の健康を保護するとともに生活環境を保全するための調査を行う。	大気環境担当	青空再生課	128頁
揮発性有機化合物対策事業	光化学オキシダントによる健康被害を防止するために、原因物質である揮発性有機化合物（VOC）の大気への排出状況を把握し、排出削減のための事業者指導を行う。	大気環境担当	青空再生課	128頁
騒音・振動・悪臭防止対策事業	騒音、振動、悪臭に関する規制事務の適正な執行を図るため、苦情処理に必要な指導及び調査を実施する。	大気環境担当 地質地盤 騒音担当	水環境課	129頁
化学物質環境実態調査事業	一般環境中に残留する化学物質の早期発見及びその濃度レベルを把握する。	大気環境担当 水環境担当	青空再生課（環境省委託）	129頁
水質監視事業（公共用水域）	県内主要河川の環境基準達成状況を把握し、県民の健康の保護と生活環境の保全を図る。	水環境担当	水環境課	130頁
工場・事業場水質規制事業	工場・事業場の排水基準の遵守及び公共用水域の保全を目的に、環境管理事務所が実施した立ち入り検査等による採取検体の分析（クロスチェック）を行い、水質汚濁の防止に役立てる。	水環境担当	水環境課	130頁
水質事故対策事業	油類の流出、魚類の浮上・へい死等の異常水質事故の発生に際し、迅速に発生源及び原因物質を究明して適切な措置を講じることにより、汚染の拡大を防止し、県民の健康被害の防止及び水質の保全を図る。	水環境担当	水環境課	131頁
里川関連3事業（里川づくり・木炭・川ガキ養成埼玉塾）	「里川」の再生を目指し、住民、河川浄化団体、学校、企業と自治体が協働し、家庭排水対策を中心とした県民運動としての河川浄化活動を推進する。	水環境担当	水環境課	131頁
産業廃棄物排出事業者指導事業	最終処分場の埋立作業時及び埋立終了後における監視指導を強化し、廃棄物の適正処理・管理の推進並びに生活環境の保全に資する。	廃棄物管理担当	産業廃棄物指導課	132頁

事業名	目的	担当	関係課	概要
廃棄物不法投棄特別監視対策事業	不法投棄された廃棄物の検査を実施し、生活環境への影響を評価するとともに支障を除去する。	廃棄物管理担当	産業廃棄物指導課	132頁
廃棄物の山の撤去・環境保全対策事業	廃棄物の山が周囲に与える支障の有無について評価する。また、廃棄物の山の撤去等に必要の調査を実施するとともに周辺に影響を与える場合の支障軽減対策を行う。	廃棄物管理担当	産業廃棄物指導課	133頁
廃棄物処理施設検査監視指導事業	一般廃棄物処理施設の立ち入り調査で採取した試料を分析し、分析委託業者の報告データについてクロスチェックを行う。	廃棄物管理担当	資源循環推進課	133頁
資源リサイクル拠点環境調査研究事業（埋立処分(1)イオン類、埋立処分(2)閉鎖）	環境整備センターの浸出水、処理水、地下水の水質検査並びに埋立地ガスの検査により、適正な維持管理に資する。	廃棄物管理担当	資源循環推進課	134頁
新河岸川産業廃棄物処理対策事業	有機溶剤を含む廃棄物が不法投棄された新河岸川河川敷で実施されている処理対策を支援するため、対策現場の保有水水質及び発生ガスの調査を行う。	廃棄物管理担当	河川砂防課	134頁
ダイオキシン類大気関係対策事業	ダイオキシン類による環境汚染の防止を図るため、ダイオキシン類対策特別措置法及び県生活環境保全条例に基く立入検査等に伴って採取した排ガス、灰の検査を実施する。大気内の汚染状況の常時監視において高濃度等が検出された地域の追跡調査を実施し、改善を図る。	化学物質担当	青空再生課	135頁
工場・事業場水質規制事業（ダイオキシン類）	ダイオキシン類対策特別措置法等に基づき、工場・事業場への立入検査等を実施し、排水規制の徹底を図る。	化学物質担当	水環境課	135頁
土壌・地下水汚染対策事業（土壌のダイオキシン類調査）	大気に係るダイオキシン類の特定施設からの影響を監視するため、発生源周辺の土壌汚染状況調査、汚染の恐れがあると判断される土地に対する立入検査を行い、県民の健康被害の防止を図る。	化学物質担当	水環境課	136頁
水質監視事業（ダイオキシン類汚染対策調査）	環境基準を超過するものの、汚染源が不明となっている河川について、研究的な視点による調査、解析・考察を行う。	化学物質担当	水環境課	136頁
資源リサイクル拠点環境調査研究事業（ダイオキシン類調査（大気））	資源循環工場の運営協定に基づき、埼玉県環境整備センター、資源循環工場及び周辺地域の自然環境調査を継続的に実施し、自然環境の変化をモニタリングする。	化学物質担当	資源循環推進課	137頁
化学物質総合対策推進事業（工業団地等周辺環境調査）	PRTR法対象化学物質のうち、大気への排出量の多い化学物質を中心に、事業場周辺における環境濃度の実態を把握する。	化学物質担当	青空再生課	137頁
野生動物レスキュー事業	野鳥の不審死の原因を推定するため、胃内容物等に含まれる農薬等化学物質を分析検査する。	化学物質担当	自然環境課	138頁

事業名	目的	担当	関係課	概要
県立学校等焼却炉撤去解体事業	県立学校等に設置されている小型焼却炉の撤去に先だって事前調査を行い、ダイオキシン類に係る解体・撤去作業員の曝露防止措置を決定する。	化学物質担当	教育局教育総務部財務課	138頁
ヒートアイランド現象対策事業	本県におけるヒートアイランド現象の実態を把握するとともに、緑地のクールスポットとしての効果を評価する。	自然環境担当 大気環境担当	温暖化対策課	139頁
大気汚染常時監視運営管理事業 (光化学スモッグによる植物影響調査)	光化学スモッグ(主としてオゾン)が植物に及ぼす影響を把握するため、指標植物を用いて被害分布とその経年変化を調査する。	自然環境担当	青空再生課	139頁
希少野生生物保護事業	県の魚ムサシトミヨが自然状態で安定的に生息できるように、元荒川の水源を維持するとともに、種の保存、危険分散に係わる試験研究を実施し、ムサシトミヨ生息地における遺伝的多様性評価に係わる試験研究を行う。「県内希少野生動植物種」に指定されているソボツチスガリ(ハチ目)、イモリ(両生類)について、保護管理事業の目標や、事業が行われるべき区域、事業内容等を定めた保護管理計画を策定するための生息状況調査を実施する。また、ミヤマスカシユリ、サワトラノオ、デンジソウ等について、個体の維持・増殖および危険分散を実施する。	自然環境担当 水環境担当	自然環境課	140頁
野生生物保護事業	野生生物保護に資するため、野生生物に関する各種情報をGISデータベースとして整備する。また、奥秩父雁坂付近原生林の気象観測を行うとともに、現在進行しているシカ食害状況を経年的に調査、把握する。	自然環境担当	自然環境課	140頁
水辺再生100プラン事業(御陣場川、男堀川、小山川に係る魚類調査)	水辺再生100プラン事業の事業着手前の現状を把握するために、魚類調査を行う。この事業は環境部との連携を施策として位置づけており、水環境的な視点から解析評価し、今後の改善・方向性等について提言する。	自然環境担当 水環境担当	水辺再生課	141頁
小山川・元小山川清流ルネッサンスⅡ魚類調査	小山川・元小山川清流ルネッサンスⅡにおける御陣場川からの導水並びに低水路工の効果検証のために、魚類調査を実施し、現地の地形や植生を踏まえ、魚類生息状況全般に係る内容について提言する。	自然環境担当 水環境担当	水辺再生課	141頁
地理環境情報システム整備事業	環境保全施策策定に資するための基礎的な環境情報を地理情報システムとして整備するとともに、電子地図及び各種空間情報を県民に提供し、環境学習や環境保全活動を支援する。	自然環境担当	温暖化対策課	142頁

事業名	目的	担当	関係課	概要
土壌・地下水汚染対策事業	汚染が懸念される土壌・地下水等の調査・分析により、汚染状況の把握及び汚染機構の解明を行い、土壌・地下水汚染対策の推進を図る。	土壌・地下水汚染対策チーム	水環境課	142頁
水質監視事業（地下水常時監視）	地下水の水質調査を行うことで、環境基準の達成状況や地下水の汚染地域を把握し、事業所等への指導と併せ、県民の健康の保護と生活環境の保全を図る。	土壌・地下水汚染対策チーム	水環境課	143頁

5.3 学会等における研究発表

5.3.1 論文

論文名	執筆者	掲載誌	抄録
Simultaneous nitrogen and phosphorus removal from high-strength industrial wastewater using aerobic granular sludge	N. Kishida ¹⁾ , S. Tsuneda ²⁾ , J. H. Kim ³⁾ , R. Sudo	Journal of Environmental Engineering, Vol.135, No.3, 153-158 (2009)	144頁
Improvement of dynamic range of Statistical Interferometry and its application to monitor ultra-short term growth behavior of plant	K. Kobayashi ⁴⁾ , H. Kadono	Proceedings of the International Symposium on Optomechatronic Technologies 2009, 260-265 (2009)	144頁
Phase analysis of interference signal with optical Hilbert transform based on orthogonal linear polarization phase shifting	V. D. Madjarova ⁴⁾ , H. Kadono, N. Kurita ⁴⁾	Proceedings of the Fringe 2009, 132-137 (2009)	144頁
注湯による鋳物作業場内空気質の変化について	石川紫 ⁵⁾ 、唐牛聖文 ⁶⁾ 、竹内庸夫、養毛康太郎、大塚宜寿、野尻喜好、柳沢幸雄 ⁵⁾	におい・かおり環境学会誌、Vol.40、No.1、18-25 (2009)	145頁
砂型鋳造工場作業場内の臭気性・有害性化学物質	石川紫 ⁵⁾ 、唐牛聖文 ⁶⁾ 、竹内庸夫、養毛康太郎、大塚宜寿、野尻喜好、柳沢幸雄 ⁵⁾	大気環境学会誌、Vol.44、No.3、166-173 (2009)	145頁
非海塩由来塩化物イオン沈着物に対するダイオキシン類対策および三宅島噴火の影響	松本利恵、野尻喜好、坂本和彦 ⁴⁾	大気環境学会誌、Vol.44、No.4、186-195 (2009)	145頁
マルチノズルカスケードインパクタ(MCI) サンプラーを用いた近年の道路沿道と一般環境における粒子状物質(PM _{2.5} 及びPM _{2.5-10})の比較	米持真一、梅沢夏実、磯部充久 ⁷⁾ 、松本利恵、深井順子 ⁷⁾ 、城裕樹 ⁷⁾ 、関根健司 ⁸⁾ 、相沢和哉 ⁹⁾	大気環境学会誌、Vol.44、No.4、211-221 (2009)	146頁
夏季のPM _{2.5} 質量濃度に対する東アジアからの越境汚染人為エアロゾルの影響	板野泰之 ¹⁰⁾ 、若松伸司 ¹¹⁾ 、長谷川就一、岡崎友紀代 ¹¹⁾ 、紀本岳志 ¹²⁾	大気環境学会誌、Vol.45、No.2、66-72 (2010)	146頁
硫酸塩還元条件におけるセルロースを共存基質とした高分子リグニンの分解特性	高在中 ¹³⁾ 、清水芳久 ¹⁴⁾ 、池田和弘、金錫九 ¹⁴⁾ 、松井三郎 ¹⁴⁾	廃棄物資源循環学会論文誌、Vol.20、No.3、151-160 (2009)	146頁
Arsenic release from contaminated soil of Bangladesh in natural field conditions	M. S. Azam ¹⁵⁾ , M. Shafiquzzaman ¹⁵⁾ , I. Mishima, J. Nakajima ¹⁵⁾	Journal of Scientific Research, Vol.1, No.2, 258-269 (2009)	147頁
Technical and social evaluation of arsenic mitigation in rural Bangladesh	M. Shafiquzzaman ¹⁵⁾ , M. S. Azam ¹⁵⁾ , I. Mishima, J. Nakajima ¹⁵⁾	Journal of Health, Population and Nutrition, Vol.27, No.5, 674-683 (2009)	147頁
Control of membrane fouling in membrane bioreactor process by coagulant addition	I. Mishima, J. Nakajima ¹⁵⁾	Water Science and Technology, Vol.59, No.7, 1255-1262 (2009)	147頁
抽水植物による <i>Microcystis</i> 増殖抑制アレロパシー	武田文彦 ¹⁶⁾ 、野村宗弘 ¹⁶⁾ 、中野和典 ¹⁶⁾ 、西村修 ¹⁶⁾ 、島多義彦 ¹⁷⁾ 、袋昭太 ¹⁷⁾ 、田中仁志、稲森悠平 ¹⁸⁾	用水と廃水、Vol.51、No.6、477-483 (2009)	148頁
境界条件が原位置通気係数の算出に用いられる形状係数に及ぼす影響	濱本昌一郎 ⁴⁾ 、川本健 ⁴⁾ 、長森正尚、小松登志子 ⁴⁾ 、P. Moldrup ¹⁹⁾	土木学会論文集C、Vol.65、No.2、579-586 (2009)	148頁

論文名	執筆者	掲載誌	抄録
Nitrogen budget and ammonia volatilization in paddy fields fertilized with liquid cattle waste	S. Zhou ²⁰⁾ , K. Nishiyama ²⁰⁾ , Y. Watanabe, M. Hosomi ²⁰⁾	Water, Air, & Soil Pollution, Vol.201, No.1-4, 135-147 (2009)	148頁
鴨川流域におけるノニルフェノール化合物の排出実態の評価	茂木守、野尻喜好、細野繁雄、田中康之 ²¹⁾ 、河村清史 ⁴⁾	環境化学、Vol.19、No.2、197-206 (2009)	149頁
Contamination, chemical speciation and vertical distribution of heavy metals in soils of an old and large industrial zone in Northeast China	F. Li ²²⁾ , Z. Fan ²³⁾ , P. Xiao ²⁴⁾ , K. Oh, X. Ma ²²⁾ , W. Hou ²²⁾	Environmental Geology, Vol.57, No.8, 1815-1823 (2009)	149頁
Chlorinated polycyclic aromatic hydrocarbons in sediments from industrial areas in Japan and the United States	Y. Horii, T. Ohura ²⁵⁾ , N. Yamashita ²⁶⁾ , K. Kannan ²⁷⁾	Archives of Environmental Contamination and Toxicology, Vol.57, No.4, 651-660 (2009)	149頁
任意形状アレーを用いた微動探査における位相速度の直接同定法	白石英孝、浅沼宏 ¹⁶⁾	物理探査、Vol.62、No.3、339-350 (2009)	150頁
Development of geo-database system with the perspective of environmental scientific use and its application	S. Hachinohe, T. Ishiyama, K. Sasaka, T. Ishihara ⁵⁾ , T. Sugai ⁵⁾ , K. G. I. D. Kumari ²⁸⁾ , C. T. Oguchi ²⁸⁾	Proceedings of the International Symposium on Geo-informatics and Zoning for Hazard Mapping, 152-157 (2009)	150頁
関東平野内陸部、吹上～行田地域における中・上部更新統の地下層序と堆積環境変化	松島紘子 ⁵⁾ 、須貝俊彦 ⁵⁾ 、水野清秀 ²⁶⁾ 、八戸昭一	第四紀研究、Vol.48、No.2、59-74 (2009)	150頁
地下温度データを用いた過去の地表面温度履歴の推定ーバンコク地域への適用ー	濱元栄起、山野誠 ²⁹⁾ 、後藤秀作 ²⁶⁾ 、谷口真人 ³⁰⁾	物理探査、Vol.62、No.6、575-584 (2009)	151頁
日本海東縁、上越海盆西部メタンハイドレート分布域の熱流量分布	町山栄章 ³¹⁾ 、木下正高 ³¹⁾ 、武内里香 ⁵⁾ 、松本良 ⁵⁾ 、山野誠 ²⁹⁾ 、濱元栄起、弘松峰男 ⁵⁾ 、佐藤幹夫 ²⁶⁾ 、小松原純子 ²⁶⁾	地学雑誌、Vol.118、No.5、986-1007 (2009)	151頁
埼玉県土の炭素貯留と二酸化炭素排出削減能力の推計	嶋田知英、小川和雄、三輪誠、米倉哲志	全国環境研会誌、Vol.34、No2、119-124 (2009)	151頁
統合評価モデルを用いた日本を対象とした温暖化影響の総合評価	脇岡靖明 ³²⁾ 、高橋潔 ³²⁾ 、花崎直太 ³²⁾ 、増富祐司、原沢英男 ³³⁾	地球環境、Vol.14、No.2、127-133 (2009)	152頁
Emission scenario dependencies in climate change assessments of the hydrological cycle	H. Shioyama ³²⁾ , N. Hanasaki ³²⁾ , Y. Masutomi, T. Nagashima ³²⁾ , T. Ogura ³²⁾ , K. Takahashi ³²⁾ , Y. Hijioka ³²⁾ , T. Takemura ³⁴⁾ , T. Nozawa ³²⁾ , S. Emori ³²⁾	Climatic Change, Vol.99, 321-329 (2010)	152頁

(注) 執筆者の所属機関名は187ページに一覧にした。

5.3.2 総説・解説

題名	執筆者	掲載誌	抄録
水質汚濁対策から水環境保全へ	須藤隆一	用水と廃水、Vol.51、No.4、301-305 (2009)	153頁
おいに議論して今後の水環境施策の方向性を定めたいー水環境と地球温暖化の問題は車の両輪：片方がないと進まないー	須藤隆一	用水と廃水、Vol.52、No.1、3-6 (2010)	153頁

題名	執筆者	掲載誌	抄録
ドクターすどうの環境ってなんだろう (第40回～51回)	須藤隆一	用水と廃水、Vol.51、No.4(2009)～ Vol.52、No.3(2010)(連載)	153頁
生物処理の管理(347～358)湖沼の浄化 (61～72)	須藤隆一	月刊「水」、Vol.51、No.4(2009)～Vol.52、 No.3(2010)(連載)	154頁
統計的干渉法によるアカマツ実生苗の根 のナノメータ成長計測－新しい植生診断 の可能性－	豊岡了 ⁴⁾ 、門野博史	光技術コンタクト、Vol.47、No.7、357-362 (2009)	154頁
微小粒子状物質(PM2.5)の特徴と埼玉県 の現状	米持真一	埼環協ニュース、215号、20-26 (2009)	154頁
砂状の建設混合廃棄物破碎選別残さ中 の廃石膏ボードと木の含有特性	朝倉宏 ³²⁾ 、山田正人 ³²⁾ 、 渡辺洋一、小野雄策、 井上雄三 ³²⁾	都市清掃、Vol.62、No.289、254-260 (2009)	155頁
混合廃棄物破碎選別処理と埋立廃棄物 の品質	渡辺洋一	環境技術、Vol.38、No.4、241-248 (2009)	155頁
破碎処理施設の種類と技術	渡辺洋一	環境技術会誌、No.136、10-12 (2009)	155頁
廃棄物不適正処分現場における環境修 復技術	渡辺洋一	廃棄物資源循環学会誌、Vol.20、No.6、 304-307 (2009)	156頁
最近における地盤情報の整備と活用(4) －埼玉県における地盤情報とその公開に ついて－	八戸昭一、佐坂公規、 白石英孝、濱元栄起	応用地質、Vol.50、No.4、248-249 (2009)	156頁
ムサシトミヨ:世界中で唯一熊谷市に残っ た魚	金澤光	魚類学雑誌、Vol.56、No.2、175-178 (2009)	156頁
統計的アプローチによる地球温暖化のア ジア水稻生産への影響評価(1)	増富祐司	週刊農林、第2058号、12-14 (2009)	157頁
統計的アプローチによる地球温暖化のア ジア水稻生産への影響評価(2)	増富祐司	週刊農林、第2061号、6-8 (2009)	157頁

(注) 執筆者の所属機関名は187ページに一覧にした。

5.3.3 学会発表

期日	学会の名称	発表テーマ	発表者及び 共同研究者	抄録
H21. 4. 1	第57回応用物理学関係連 合講演会(筑波大学)	統計干渉法による変位計測システムのレン ジ拡大と植物生長測定への応用	小林幸一 ⁴⁾³⁵⁾ 、門野博 史、志村和樹 ⁴⁾ 、高原 正博 ³⁵⁾	158頁
H21. 5. 18	33rd ISCC & 6th GCxGC symposium (Portland, USA)	Analysis of chlorinated and brominated polycyclic aromatic hydrocarbons (Cl-/BrPAHs) in environmental samples by GCxGC-high resolution TOF-MS	T. Ieda ³⁶⁾ 、N. Ochiai ³⁶⁾ 、 T. Miyawaki ³⁷⁾ 、 Y. Horii、S. Hosono、 T. Ohura ²⁵⁾	175頁
H21. 5. 19	日本地球惑星科学連合 2009年大会(千葉市)	東京首都圏における地下水・地下温度環 境の変遷	宮越昭暢 ²⁶⁾ 、林武司 ³⁸⁾ 川合将文 ³⁹⁾ 、川島眞 一 ³⁹⁾ 、八戸昭一	180頁
H21. 5. 20	日本地球惑星科学連合 2009年大会(千葉市)	荒川低地上流域における地下水および沖 積層の特徴と環境科学的課題	八戸昭一、石山高、佐 坂公規、石原武志 ⁵⁾ 、 須貝俊彦 ⁵⁾	180頁
H21. 5. 21	日本地球惑星科学連合 2009年大会(千葉市)	荒川低地中・上流域および妻沼低地にお ける沖積層層序と地層形成	石原武志 ⁵⁾ 、須貝俊彦 ⁵⁾ 、 八戸昭一、水野清 秀 ²⁶⁾ 、久保純子 ⁴⁰⁾	180頁

期 日	学会の名称	発 表 テ ー マ	発表者及び 共同研究者	抄録
H21. 6. 1	SETAC Europe 19th Annual Meeting (Göteborg, Sweden)	Occurrence of organic UV filters for polymer based products in the Japanese aquatic environment	Y. Kameda	164頁
H21. 6. 6	日本地質学会関東支部 第3回研究発表会 (東京都新宿区)	中川低地沿いの更新統下総層群の層序と地質構造	中澤努 ²⁶⁾ 、中里裕臣 ⁴¹⁾ 中山俊雄 ³⁹⁾ 、 八戸昭一	180頁
H21. 6. 9	第18回環境化学討論会 (つくば市)	鋳物作業場内におけるVOC、アルデヒド類 について	石川紫 ⁵⁾⁴²⁾ 、唐牛聖文 ⁶⁾ 、 竹内庸夫、蓑毛康 太郎、大塚宜寿、野尻 喜好、柳沢幸雄 ⁵⁾	159頁
H21. 6. 9	第18回環境化学討論会 (つくば市)	化粧品及び高分子製品由来の紫外線吸収 剤の水環境中の汚染状況	亀田豊	164頁
H21. 6. 9	第18回環境化学討論会 (つくば市)	水試料におけるPFOS、PFOA及びそれらの 前駆物質の分析方法の検討	茂木守、細野繁雄、 野尻喜好	175頁
H21. 6. 9	第18回環境化学討論会 (つくば市)	指標異性体を用いたダイオキシン類の簡易 測定法	蓑毛康太郎、 大塚宜寿、野尻喜好、 細野繁雄	175頁
H21. 6. 9	第18回環境化学討論会 (つくば市)	ダイオキシン天然生成の検証: 各国カオリ ン粘土中ダイオキシンの分布	堀井勇一、細野繁雄、 大塚宜寿、蓑毛康太 郎、K. Kannan ²⁷⁾ 、 P. K. S. Lam ⁴³⁾ 、 山下信義 ²⁶⁾	176頁
H21. 6. 9	第18回環境化学討論会 (つくば市)	GCxGC-高分解能TOF-MSによる環境試 料中塩素化・臭素化PAHsの分析	家田曜世 ³⁶⁾ 、落合伸 夫 ³⁶⁾ 、宮脇俊文 ³⁷⁾ 、 堀井勇一、細野繁雄、 大浦健 ²⁵⁾	176頁
H21. 6. 9	第18回環境化学討論会 (つくば市)	GCxGC-高分解能TOF-MSによる多環芳 香族炭化水素類(PAHs、Cl-PAHs、Br- PAHs)の分離の評価	家田曜世 ³⁶⁾ 、落合伸 夫 ³⁶⁾ 、宮脇俊文 ³⁷⁾ 、 堀井勇一、細野繁雄、 大浦健 ²⁵⁾	176頁
H21. 6. 10	第18回環境化学討論会 (つくば市)	鋳造工場作業場内の有害性有機化学物質	石川紫 ⁵⁾⁴²⁾ 、唐牛聖文 ⁶⁾ 、 竹内庸夫、蓑毛康 太郎、大塚宜寿、野尻 喜好、柳沢幸雄 ⁵⁾	160頁
H21. 6. 10	第18回環境化学討論会 (つくば市)	バージアンドトラップ抽出-GC/MSによる 水中フルオロテロマーアルコール類の分析	野尻喜好、茂木守、 細野繁雄	176頁
H21. 6. 10	第18回環境化学討論会 (つくば市)	指標異性体を用いる主要汚染源別TEQ (TEF2006)の推算方法	大塚宜寿、蓑毛康太 郎、野尻喜好、細野 繁雄	177頁
H21. 6. 10	第18回環境化学討論会 (つくば市)	東京湾及び米国底質における塩素化・臭 素化多環芳香族炭化水素類の分布	堀井勇一、山下信義 ²⁶⁾ 、 大浦健 ²⁵⁾ 、 K. Kannan ²⁷⁾	177頁
H21. 6. 18	第15回地下水・土壌汚染と その防止対策に関する研 究集会(名古屋市)	海成堆積層からの重金属類溶出特性の解 析	石山高、長森正尚、 佐坂公規、見島伊織、 八戸昭一	164頁

期 日	学会の名称	発 表 テ ー マ	発表者及び 共同研究者	抄録
H21. 6. 30	第17回衛生工学シンポジウム(北海道大学)	石膏ボード破砕選別物の課題と環境保全技術	小野雄策 ⁵⁸⁾ 、川寄幹生、山田正人 ³²⁾ 、遠藤和人 ³²⁾	171頁
H21. 7. 9	7th International Conference on Geomorphology (Melbourne, Australia)	Geomorphic development since the Latest Pleistocene in the Arakawa and the Menuma Lowland, Central Japan	T. Ishihara ⁵⁾ , T. Sugai ⁵⁾ , S. Hachinohe, K. Mizuno ²⁶⁾ , S.Kubo ⁴⁰⁾	181頁
H21. 7. 10	7th International Conference on Geomorphology (Melbourne, Australia)	Reconstruction of Paleoshorelines during Past Interglacials in Northern Kanto Plain, Japan	H. Matsushima ⁵⁾ , T. Sugai ⁵⁾ , K. Mizuno ²⁶⁾ , S. Hachinohe	181頁
H21. 7. 19	MOCA09, Joint assembly of IAMAS, IAPSO and IACS (Montreal, Canada)	Emission scenario dependences in climate change assessments on hydrological cycle	H. Shiogama ³²⁾ , N. Hanasaki ³²⁾ , Y. Masutomi, T. Nagashima ³²⁾ , T. Ogura ³²⁾ , K. Takahashi ³²⁾ , Y. Hijioka ³²⁾ , T. Takemura ³⁴⁾ , T. Nozawa ³²⁾ , S. Emori ³²⁾	183頁
H21. 7. 31	第31回京都大学環境衛生工学研究会シンポジウム(京都市)	硫酸塩還元条件下における石炭系油汚染土壌のバイオレメディエーション	木戸遥 ¹⁴⁾ 、寺岡裕介 ¹⁴⁾ 、清水芳久 ¹⁴⁾ 、池田和弘、川端祥浩 ¹⁴⁾ 、原田英典 ¹⁴⁾	164頁
H21. 8. 24	29th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (Beijing, China)	Atmospheric deposition fluxes of dioxins at an industrial site and a rural site in Japan	K. Oh, K. Nojiri	177頁
H21. 8. 24	29th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (Beijing, China)	Remediation of dioxin-contaminated soil with combination of biofuel crops and white rot fungus	K. Oh, S. Hosono, Q. Lin ⁴⁴⁾ , Y. H. Xie ⁴⁵⁾ , F. Y. Li ²²⁾ , C. J. Jiang ⁴⁶⁾ , T. Hirano ⁴⁷⁾	177頁
H21. 8. 24	29th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (Beijing, China)	Occurrence and profiles of chlorinated and brominated PAHs in sediments from industrial areas in Japan and the United States	Y. Horii, T. Ohura ²⁵⁾ , N. Yamashita ²⁶⁾ , K. Kannan ²⁷⁾	178頁
H21. 8. 24	29th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (Beijing, China)	Fluxes of perfluorinated chemicals through precipitation in Japan, USA and several other countries	K. Y. Kwok ²⁶⁾⁴³⁾ , S. Taniyasu ²⁶⁾ , L. W. Y. Yeung ²⁶⁾⁴³⁾ , P. K. S. Lam ⁴³⁾ , Y. Horii, K. Kannan ²⁷⁾ , G. Petrick ⁴⁸⁾ , N. Yamashita ²⁶⁾	178頁
H21. 8. 24	29th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (Beijing, China)	A nationwide survey of perfluorinated compounds in surface water samples from 47 prefectures in Japan	F. Y. Lai ²⁶⁾ , L. W. Y. Yeung ²⁶⁾⁴³⁾ , S. Taniyasu ²⁶⁾ , P. Li ²⁶⁾ , Y. Horii, K. Kannan ²⁷⁾ , P. K. S. Lam ⁴³⁾ , N. Yamashita ²⁶⁾	178頁

期 日	学会の名称	発 表 テ ー マ	発表者及び 共同研究者	抄録
H21. 8. 25	29th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (Beijing, China)	Study on natural formation of dioxins: Dioxins in kaolin clays from Asia and several other countries	Y. Horii, S. Hosono, N. Ohtsuka, K. Minomo, K. Kannan ²⁷⁾ , P. K. S. Lam ⁴³⁾ , N. Yamashita ²⁶⁾	178頁
H21. 8. 27	29th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (Beijing, China)	Does precipitation represent air pollution by perfluorinated chemicals?	S. Taniyasu ²⁶⁾ , N. Yamashita ²⁶⁾ , K. Y. Kwok ²⁶⁾⁴³⁾ , L. W. Y. Yeung ²⁶⁾⁴³⁾ , P. K. S. Lam ⁴³⁾ , Y. Horii, G. Petrick ⁴⁸⁾ , K. Kannan ²⁷⁾	179頁
H21. 9. 7	日本生物環境工学会2009年福岡大会(九州大学)	統計干渉法を用いた環境影響下の極短時間植物生長応答計測	小林幸一 ⁴⁾³⁵⁾ 、門野博史、米倉哲志、笹口健志 ⁴⁾	158頁
H21. 9. 11	第70回応用物理学会学術講演会(富山大学)	統計干渉法を用いた環境影響下の極短時間植物生長応答計測	志村和樹 ⁴⁾ 、小林幸一 ⁴⁾³⁵⁾ 、門野博史	158頁
H21. 9. 11	第70回応用物理学会学術講演会(富山大学)	時間領域Hilbert変換位相解析デジタルホログラフィ法による動的変形計測	片岡基史 ⁴⁾ 、M. Violeta ⁴⁾ 、門野博史	158頁
H21. 9. 11	第70回応用物理学会学術講演会(富山大学)	偏光位相シフト干渉法による高精度動的変形計測	栗田直亮 ⁴⁾ 、門野博史、M. Violeta ⁴⁾	159頁
H21. 9. 16	第50回大気環境学会年会(慶応義塾大学)	光化学オキシダントと粒子状物質等の汚染特性解明に関する研究(2)ー関東甲信静地域におけるOx高濃度事例解析について(1)ー	武藤洋介、清水源治 ⁴⁹⁾ 、石井康一郎 ⁵⁰⁾ 、国立環境研究所・C型共同研究グループ(関東甲信静グループ)	160頁
H21. 9. 16	第50回大気環境学会年会(慶応義塾大学)	埼玉県奥秩父の中山間地における大気中オゾン濃度の測定ーブナ林に対する影響に着目してー	三輪誠、小川和雄	184頁
H21. 9. 17	第50回大気環境学会年会(慶応義塾大学)	埼玉県北部におけるサブミクロン粒子(PM1)とPM2.5の4年間の並行観測	米持真一、梅沢夏実	160頁
H21. 9. 17	第50回大気環境学会年会(慶応義塾大学)	埼玉県における大気中フロン類の動向	竹内庸夫	160頁
H21. 9. 17	第20回廃棄物資源循環学会研究発表会(名古屋大学)	家屋解体起源等の木くずチップ中のハロアニソール類	倉田泰人、渡辺洋一	172頁
H21. 9. 18	第50回大気環境学会年会(慶応義塾大学)	水稲の収量におよぼすオゾン暴露時期の影響	米倉哲志、嶋田知英、三輪誠、河野吉久 ⁵¹⁾	161頁
H21. 9. 18	第50回大気環境学会年会(慶応義塾大学)	気温とオゾン濃度上昇が水稲品種の収量におよぼす影響	河野吉久 ⁵¹⁾ 、澤田寛子 ⁵¹⁾ 、松村秀幸 ⁵¹⁾ 、米倉哲志	161頁
H21. 9. 18	第50回大気環境学会年会(慶応義塾大学)	埼玉県内の道路沿道と一般環境におけるPM2.5濃度と化学組成の比較(1)	深井順子 ⁷⁾ 、米持真一、磯部充久 ⁷⁾ 、城裕樹 ⁷⁾ 、梅沢夏実、松本利恵、関根健司 ⁵²⁾	161頁
H21. 9. 18	第50回大気環境学会年会(慶応義塾大学)	埼玉県内の道路沿道と一般環境におけるPM2.5濃度と化学組成の比較(2)	米持真一、梅沢夏実、深井順子 ⁷⁾ 、磯部充久 ⁷⁾ 、城裕樹 ⁷⁾ 、松本利恵、関根健司 ⁵²⁾	161頁

期 日	学会の名称	発 表 テ ー マ	発表者及び 共同研究者	抄録
H21. 9. 18	第50回大気環境学会年会 (慶応義塾大学)	茶石綿、青石綿への光学顕微鏡法の適用	梅沢夏実、米倉哲志	162頁
H21. 9. 18	第50回大気環境学会年会 (慶応義塾大学)	全国酸性雨調査(66)～乾性沈着(沈着量の推計)～	松本利恵、野口泉 ⁵³⁾ 、 藍川昌秀 ⁵⁴⁾ 、橋本俊 — ⁵⁵⁾ 、松田和秀 ⁵⁶⁾	162頁
H21. 9. 18	第20回廃棄物資源循環学 会研究発表会 (名古屋大学)	色彩情報による建設廃棄物の性状評価	渡辺洋一、川寄幹生、 小野雄策 ⁵⁸⁾ 、山田正 人 ³²⁾	172頁
H21. 9. 18	第20回廃棄物資源循環学 会研究発表会 (名古屋大学)	管理型最終処分場の廃止基準に関する考 察(6)	長森正尚、山田正人 ³²⁾ 石垣智基 ⁵⁷⁾ 、小野雄 策 ⁵⁸⁾	172頁
H21. 9. 18	第20回廃棄物資源循環学 会研究発表会 (名古屋大学)	最終処分場での比抵抗探査における埋立 廃棄物の影響評価に関する研究	磯部友護、川寄幹生、 小野雄策 ⁵⁸⁾ 、遠藤和 人 ³²⁾ 、山田正人 ³²⁾	172頁
H21. 9. 18	第50回大気環境学会年会 (慶応義塾大学)	オゾンによる植物被害とその分子的メカニ ズムに関する研究—可視被害とオゾン濃度 との関係—	岡崎淳 ⁵⁹⁾ 、青野光子 ³²⁾ 三輪誠、小川和雄、 武田麻由子 ⁶⁰⁾ 、小松 宏昭 ⁶⁰⁾ 、山神真紀子 ⁶¹⁾ 福田拓 ⁶²⁾ 、須田隆一 ⁶³⁾ 中村朋史 ⁶³⁾ 、横山仁 ⁵⁰⁾ 光武隆久 ⁶⁴⁾ 、久保明 弘 ³²⁾ 、中嶋信美 ³²⁾ 、 玉置雅紀 ³²⁾ 、佐治光 ³²⁾	184頁
H21. 9. 18	第50回大気環境学会年会 (慶応義塾大学)	オゾンによる植物被害とその分子的メカニ ズムに関する研究—遺伝子発現でアサガ オのオゾンストレスを診断する(3)—	青野光子 ³²⁾ 、岡崎淳 ⁵⁹⁾ 三輪誠、小川和雄、 武田麻由子 ⁶⁰⁾ 、小松 宏昭 ⁶⁰⁾ 、山神真紀子 ⁶¹⁾ 福田拓 ⁶²⁾ 、須田隆一 ⁶³⁾ 中村朋史 ⁶³⁾ 、横山仁 ⁵⁰⁾ 光武隆久 ⁶⁴⁾ 、久保明 弘 ³²⁾ 、中嶋信美 ³²⁾ 、 玉置雅紀 ³²⁾ 、佐治光 ³²⁾	184頁
H21. 9. 19	第20回廃棄物資源循環学 会研究発表会 (名古屋大学)	埼玉県の事業系ごみ その2 事業系ごみ 削減キャンペーン	川寄幹生、堀口浩二 ⁶⁵⁾ 藤崎智子 ⁶⁵⁾ 、中山雅 樹 ⁶⁶⁾ 、前田恵美 ⁶⁵⁾ 、磯 部友護、長谷隆仁、土 屋雅子 ⁶⁷⁾ 、小野雄策 ⁵⁸⁾	173頁
H21. 9. 24	日本分析化学会第58年会 (札幌市)	GCxGC-高分解能TOF-MSによる環境試 料中塩素化・臭素化PAHsの分析	家田曜世 ³⁶⁾ 、落合伸 夫 ³⁶⁾ 、宮脇俊文 ³⁷⁾ 、 堀井勇一、細野繁雄、 大浦健 ²⁵⁾	179頁
H21. 10. 4	日本地形学連合2009年度 秋季研究発表会 (京都教育大学)	Occurrence of heavy metals in alluvial sediments in northern part of Arakawa lowland, central Japan	K. G. I. D. Kumari ²⁸⁾ 、 C. T. Oguchi ²⁸⁾ 、 S. Hachinohe、 T. Ishiyama	181頁
H21. 10. 15	第21回環境システム計測制 御学会研究発表会 (岡山大学)	サステイナブルな創水について	中原政人 ⁶⁸⁾ 、大谷壮 介 ¹⁴⁾ 、見島伊織、 森田賢— ⁶⁹⁾	165頁
H21. 10. 15	第21回環境システム計測制 御学会研究発表会 (岡山大学)	サステイナブルなまちづくり	市川尚喜 ⁷⁰⁾ 、柿本貴 志、田本典秀 ⁷¹⁾ 、 辻幸志 ⁷²⁾ 、宮尾圭— ⁷³⁾	165頁

期 日	学会の名称	発 表 テ ー マ	発表者及び 共同研究者	抄録
H21. 10. 15	日本水処理生物学会第46 回大会（高知市）	魚類が沈水植物の成長に与える影響解析	小林紀子 ¹⁷⁾ 、酒井有 紀 ¹⁷⁾ 、袋昭太 ¹⁷⁾ 、田中 仁志、中野和典 ¹⁶⁾ 、稲 森隆平 ¹⁸⁾ 、稲森悠平 ¹⁸⁾	165頁
H21. 10. 15	日本水処理生物学会第46 回大会（高知市）	沈水植物バイオガス化システムの可能性検 討	久保田洋 ¹⁷⁾ 、吉田耕 治 ¹⁷⁾ 、袋昭太 ¹⁷⁾ 、田中 仁志、中野和典 ¹⁶⁾ 、稲 森隆平 ¹⁸⁾ 、稲森悠平 ¹⁸⁾	165頁
H21. 10. 15	日本水処理生物学会第46 回大会（高知市）	池水導水型隔離水界を用いた沈水植物の 水浄化解析	袋昭太 ¹⁷⁾ 、久保田洋 ¹⁷⁾ 島多義彦 ¹⁷⁾ 、田中仁 志、中野和典 ¹⁶⁾ 、稲森 隆平 ¹⁸⁾ 、稲森悠平 ¹⁸⁾	166頁
H21. 10. 15	日本水処理生物学会第46 回大会（高知市）	実験水槽を用いたイシガイ科二枚貝グロキ ジュウム幼生の宿主へのメダカ活用の検討	田中仁志、木持謙、金 澤光、須藤隆一、木本 達也 ⁷⁴⁾ 、松原健司 ⁷⁴⁾ 、 野村宗弘 ¹⁶⁾	166頁
H21. 10. 20	3rd IWA-ASPIRE conference & exhibition (Taipei, Taiwan)	Control of membrane fouling by fluidized media in membrane bioreactor process	I. Mishima, H. Namba ¹⁵⁾ , J. Nakajima ¹⁵⁾	166頁
H21. 11. 12	3rd Specialized Conference on Water and Wastewater International Network (Kathmandu, Nepal)	Voltammetric evaluation of the process inhibitor in the electrolytic treatment of pharmaceuticals in urine	T. Kakimoto, R. Ito ⁷⁵⁾ , N. Funamizu ⁷⁵⁾	166頁
H21. 11. 18	International Symposium on "Human impact on urban subsurface environment" (Taipei, Taiwan)	Reconstruction of the thermal environment evolution from subsurface temperature distribution in Bangkok	H. Hamamoto, M. Yamano ²⁹⁾ , S. Goto ²⁶⁾ , M. Vuthy ⁷⁶⁾ , S. Kamioka ⁷⁷⁾ , J. Nishijima ⁷⁷⁾ , O. Lorphensri ⁷⁸⁾ , M. Taniguchi ³⁰⁾	181頁
H21. 11. 21	平成21年度立正大学オー プンリサーチセンター国際 シンポジウム(立正大学)	埼玉県の下地環境を把握するために—地 質地盤情報の整備とその活用例—	八戸昭一	182頁
H21. 11. 25	日本気象学会2009年度秋 季大会（福岡市）	気候変化予測から影響評価への不確実性 伝播～南米の水資源影響評価を例として	塩竈秀夫 ³²⁾ 、江守正 多 ³²⁾⁷⁹⁾ 、花崎直太 ³²⁾ 、 阿部学 ³²⁾ 、増富祐司、 高橋潔 ³²⁾ 、野沢徹 ³²⁾	184頁
H21. 11. 30	International Workshop on "Implications for the structure and evolution of oceanic plate and underlying mantle" (Tokyo, Japan)	Anomalously low heat flow around a "petit-spot" volcano on the old Pacific plate	H. Hamamoto, M. Yamano ²⁹⁾ , K. Baba ²⁹⁾ , A. Takahashi ⁵⁾ , Y. Kawada ³¹⁾ , N. Abe ³¹⁾	182頁
H21. 11. 30	International Workshop on "Implications for the structure and evolution of oceanic plate and underlying mantle" (Tokyo, Japan)	High heat flow anomaly on the seaward slope of the Japan Trench	M. Yamano ²⁹⁾ , H. Hamamoto Y. Kawada ³¹⁾ , Y. Masaki ⁸⁰⁾ , R. Labani ⁸¹⁾	182頁
H21. 12. 1	日本地熱学会2009年平成 21年京都大会（京都大学）	埼玉県の下地温度分布から推定する地下 熱環境の変遷	濱元栄起、八戸昭一、 佐坂公規、白石英孝、 宮越昭暢 ²⁶⁾ 、後藤秀 作 ²⁶⁾ 、山野誠 ²⁹⁾	182頁

期 日	学会の名称	発 表 テ ー マ	発表者及び 共同研究者	抄録
H21. 12. 1	日本地熱学会2009年平成 21年京都大会 (京都大学)	持続的な熱採取が可能な地中熱システム のための地質条件の定量化について	松林修 ²⁶⁾ 、濱元栄起	183頁
H21. 12. 14	American Gophysical Union 2009 Fall Meeting (San Francisco, USA)	Reconstruction of the thermal environment evolution from subsurface temperature distribution in large cities in East Asia	H. Hamamoto, S. Goto ²⁶⁾ , M. Vuthy ⁷⁶⁾ , J. Nishijima ⁷⁷⁾ , M. Yamano ²⁹⁾ , M. Taniguchi ³⁰⁾ , A. Miyakoshi ²⁶⁾ , S. Hachinohe, K. Sasaka, H. Shiraishi	183頁
H21. 12. 14	American Gophysical Union 2009 Fall Meeting (San Francisco, USA)	Anomalously low heat flow around a "petit-spot" volcano on the old Pacific plate	M. Yamano ²⁹⁾ , H. Hamamoto, K. Baba ²⁹⁾ , A. Takahashi ⁵⁾ , Y. Kawada ³¹⁾ , N. Abe ³¹⁾	183頁
H22. 1. 12	Asian Science Seminar on "Sustainable Eco-Design of Our Furture on Food- and Bio-production" (Hunan, China)	Application of phytoremediation technology for utilization and remediation of soils contaminated with persistent organic pollutants	K. Oh, Q. Lin ⁴⁴⁾ , Y. H. Xie ⁴⁵⁾	179頁
H22. 1. 29	第31回全国都市清掃研究 ・事例発表会 (松山市)	コンポスト利用におけるコマツナ発芽試験 に用いる品種の影響	長谷隆仁、倉田泰人、 河村清史 ⁴⁾	173頁
H22. 2. 17	第25回全国環境研究所交 流シンポジウム(つくば市)	並行測定試験から示唆されたPM2.5測定法 の課題	長谷川就一、西川雅 高 ³²⁾ 、高橋克行 ⁸²⁾ 、 田邊潔 ³²⁾ 、若松伸司 ¹¹⁾	162頁
H22. 2. 17	第25回全国環境研究所交 流シンポジウム(つくば市)	騎西における通年観測および県内の多地 点調査から見たPM2.5の特徴	米持真一、梅沢夏実、 松本利恵、深井順子 ⁷⁾ 磯部充久 ⁷⁾	162頁
H22. 3. 9	大気環境学会環境大気モ ニタリング分科会第26回研 究会(東京都新宿区)	都市及び道路沿道大気における微小粒子 状物質の実態と今後の課題	長谷川就一	163頁
H22. 3. 13	第37回土木学会関東支部 技術研究発表会 (東京都千代田区)	農業集落排水処理施設における窒素除去 特性と温室効果ガス発生との相関性	須崎誠也 ⁸³⁾ 、小川雄 也 ⁸³⁾ 、吉田征史 ⁸³⁾ 、 見島伊織、柿本貴志、 木持謙、米倉哲志	167頁
H22. 3. 15	第44回日本水環境学会年 会 (福岡大学)	河川・湖沼に生息する水生生物中の紫外 線吸収剤濃度と蓄積特性に関する研究	亀田豊、木村久美子 ⁷⁾	167頁
H22. 3. 15	第44回日本水環境学会年 会 (福岡大学)	紫外線吸収剤の水生・底生生物に対する 慢性影響と下水道未普及地域における生 態リスク評価	平田佳子 ⁸⁴⁾ 、亀田豊、 鎌迫典久 ³²⁾ 、木村久 美子 ⁷⁾ 、山本裕史 ⁸⁴⁾	167頁
H22. 3. 15	第44回日本水環境学会年 会 (福岡大学)	河川水中における紫外線吸収剤の実態調 査	木村久美子 ⁷⁾ 、亀田豊 大熊輝雄 ⁷⁾	167頁
H22. 3. 15	第44回日本水環境学会年 会 (福岡大学)	沈水植物の浄化に及ぼす懸濁性負荷・可 溶性窒素、リン負荷特性解析	袋昭太 ¹⁷⁾ 、島多義彦 ¹⁷⁾ 田中仁志、須藤隆一、 中野和典 ¹⁶⁾ 、林紀男 ⁸⁵⁾ 稲森隆平 ¹⁸⁾ 、稲森悠 平 ¹⁸⁾	168頁

期 日	学会の名称	発 表 テ ー マ	発表者及び 共同研究者	抄録
H22. 3. 15	第44回日本水環境学会年会 (福岡大学)	水田における農薬及び分解生成物の挙動	諸橋将雪 ⁸⁶⁾ 、長沢俊輔 ⁸⁶⁾ 、塩谷奈美 ⁸⁶⁾ 、鈴木和将、小瀬知洋 ⁸⁶⁾ 、川田邦明 ⁸⁶⁾	173頁
H22. 3. 15	第44回日本水環境学会年会 (福岡大学)	新津川の底質中における炭化水素類の分布	田村崇晃 ⁸⁶⁾ 、田村優喜 ⁸⁶⁾ 、猪狩友梨 ⁸⁶⁾ 、鈴木和将、小瀬知洋 ⁸⁶⁾ 、川田邦明 ⁸⁶⁾	173頁
H22. 3. 15	第44回日本水環境学会年会 (福岡大学)	新津川底質における重金属の分布と形態	猪狩友梨 ⁸⁶⁾ 、佐々木幸徳 ⁸⁶⁾ 、鈴木和将、小瀬知洋 ⁸⁶⁾ 、川田邦明 ⁸⁶⁾	174頁
H22. 3. 15	第44回日本水環境学会年会 (福岡大学)	水環境健全性指標の新しい表示法の試み	長沢俊輔 ⁸⁶⁾ 、加藤弘洋 ⁸⁶⁾ 、田村崇晃 ⁸⁶⁾ 、鈴木和将、小瀬知洋 ⁸⁶⁾ 、川田邦明 ⁸⁶⁾	174頁
H22. 3. 15	第44回日本水環境学会年会 (福岡大学)	東京湾流域河川における残留性有機フッ素化合物(PFCs)の汚染全容調査～38種PFC類縁体の一斉分析手法の適用～	頭士泰之 ⁸⁷⁾ 、Y. Feng ⁸⁷⁾ 、益永茂樹 ⁸⁷⁾ 、茂木守、野尻喜好、細野繁雄、鈴木俊也 ⁸⁸⁾ 、小杉有希 ⁸⁸⁾ 、矢口久美子 ⁸⁸⁾	179頁
H22. 3. 15	第44回日本水環境学会年会 (福岡大学)	家庭用砒素除去フィルターによる飲用地下水からの砒素除去	砒塚史明 ¹⁵⁾ 、M. Shafiquzzaman ¹⁵⁾ 、M. S. Azam ¹⁵⁾ 、中島淳 ¹⁵⁾ 、見島伊織	168頁
H22. 3. 15	第44回日本水環境学会年会 (福岡大学)	Control of membrane fouling by coagulant and its aids addition in MBR	T. T. Tuyet ¹⁵⁾ 、J. Nakajima ¹⁵⁾ 、I. Mishima	168頁
H22. 3. 15	第44回日本水環境学会年会 (福岡大学)	ゼオライト成形体と水生植物を活用した里川再生技術の実河川における検討	木持謙、金澤光、真下敏明 ⁸⁹⁾ 、正田武則 ⁹⁰⁾ 、常田聡 ²⁾ 、関根正人 ²⁾ 、榊原豊 ²⁾	168頁
H22. 3. 15-16	第44回日本水環境学会年会 (福岡大学)	農業集落排水処理施設における水処理系からの温室効果ガス発生特性の検討	須崎誠也 ⁸³⁾ 、小川雄也 ⁸³⁾ 、吉田征史 ⁸³⁾ 、見島伊織、木持謙、柿本貴志	169頁
H22. 3. 15-16	第44回日本水環境学会年会 (福岡大学)	湖沼の沈水植物再生における派生バイオマスの活用評価	見島伊織、柿本貴志、池田和弘、田中仁志、須藤隆一、石川光祥 ¹⁷⁾ 、吉田耕治 ¹⁷⁾ 、袋昭太 ¹⁷⁾ 、中野和典 ¹⁶⁾ 、稲森悠平 ¹⁸⁾	169頁
H22. 3. 15-16	第44回日本水環境学会年会 (福岡大学)	海成層の土壌汚染リスクと土壌導電性に着目した簡易判別法の検討	石山高、八戸昭一、河村清史 ⁴⁾ 、李弘吉 ⁴⁾	169頁
H22. 3. 15-16	第44回日本水環境学会年会 (福岡大学)	学校における沈水植物を利用した堆肥作成の取り組みとその性状・肥効評価	池田和弘、柿本貴志、見島伊織、田中仁志、須藤隆一、袋昭太 ¹⁷⁾ 、中野和典 ¹⁶⁾ 、林紀男 ⁸⁵⁾ 、稲森隆平 ¹⁸⁾ 、稲森悠平 ¹⁸⁾	169頁

期 日	学会の名称	発 表 テ ー マ	発表者及び 共同研究者	抄録
H22. 3. 16	第44回日本水環境学会年会 (福岡大学)	武蔵野台地北部の湧水の水質形成と溶存物質特性	高橋基之、田中仁志、石山高	170頁
H22. 3. 16	第44回日本水環境学会年会 (福岡大学)	沈水植物の機能を組み込んだ生態系モデルの開発	武田文彦 ¹⁶⁾ 、中野和典 ¹⁶⁾ 、野村宗弘 ¹⁶⁾ 、西村修 ¹⁶⁾ 、島多義彦 ¹⁷⁾ 、袋昭太 ¹⁷⁾ 、仲沢武志 ¹⁷⁾ 、田中仁志、林紀男 ⁸⁵⁾ 、稲森悠平 ¹⁸⁾	170頁
H22. 3. 16	第44回日本水環境学会年会 (福岡大学)	沈水植物の保全・再生に及ぼす魚類の影響解析	小林紀子 ¹⁷⁾ 、酒井有紀 ¹⁷⁾ 、袋昭太 ¹⁷⁾ 、田中仁志、中野和典 ¹⁶⁾ 、林紀男 ⁸⁵⁾ 、稲森隆平 ¹⁸⁾ 、稲森悠平 ¹⁸⁾	170頁
H22. 3. 16	第44回日本水環境学会年会 (福岡大学)	実験池を用いたドブガイの稚貝発生状況による底質評価	木本達也 ⁷⁴⁾ 、松原健司 ⁷⁴⁾ 、田中仁志、木持謙、金澤光、須藤隆一、野村宗弘 ¹⁶⁾ 、李容斗 ⁹¹⁾	170頁
H22. 3. 16	第44回日本水環境学会年会 (福岡大学)	GC/MS による花卉の残留農薬の定量	塩谷奈美 ⁸⁶⁾ 、鈴木和将、小瀬知洋 ⁸⁶⁾ 、川田邦明 ⁸⁶⁾	174頁
H22. 3. 17	第57回応用物理学関係連 合講演会 (東海大学)	統計干渉法を用いた環境影響下の極短時間植物生長応答計測	志村和樹 ⁴⁾ 、小林幸一 ⁴⁾ ³⁵⁾ 、門野博史	159頁
H22. 3. 17	第44回日本水環境学会年会 (福岡大学)	植生浮島を用いた沈水植物群落再生試験における動植物プランクトンおよび水質特性	田中仁志、池田和弘、見島伊織、柿本貴志、須藤隆一、袋昭太 ¹⁷⁾ 、島多義彦 ¹⁷⁾ 、武田文彦 ¹⁶⁾ 、中野和典 ¹⁶⁾ 、林紀男 ⁸⁵⁾ 、稲森隆平 ¹⁸⁾ 、稲森悠平 ¹⁸⁾	171頁
H22. 3. 17	第44回日本水環境学会年会 (福岡大学)	硝化ポテンシャルの変動と亜酸化窒素の生成との関係	藤田昌史 ⁹²⁾ 、鈴木準平 ⁹²⁾ 、見島伊織	171頁
H22. 3. 17	第44回日本水環境学会年会 (福岡大学)	硫酸塩還元条件下における石炭系油分の微生物分解	寺岡裕介 ¹⁴⁾ 、木戸遥 ¹⁴⁾ 、清水芳久 ¹⁴⁾ 、池田和弘、川端祥浩 ¹⁴⁾ 、原田英典 ¹⁴⁾ 、川崎浩司 ⁹³⁾ 、山下信彦 ⁹³⁾ 、川西順次 ⁹⁴⁾ 、田中宏幸 ⁹⁴⁾	171頁
H22. 3. 17	第44回日本水環境学会年会 (福岡大学)	強磁性体担持多孔性炭素材料による揮発性有機塩素化合物の吸着除去	大野正貴 ⁸⁶⁾ 、大倉遼一 ⁸⁶⁾ 、鈴木和将、小瀬知洋 ⁸⁶⁾ 、浅田隆志 ¹⁸⁾ 、川田邦明 ⁸⁶⁾	174頁
H22. 3. 17	第44回日本水環境学会年会 (福岡大学)	強磁性体担持多孔性炭素材料による水中の汚染物質の吸着除去	大倉遼一 ⁸⁶⁾ 、大野正貴 ⁸⁶⁾ 、鈴木和将、小瀬知洋 ⁸⁶⁾ 、浅田隆志 ¹⁸⁾ 、川田邦明 ⁸⁶⁾	175頁
H22. 3. 17	日本農業気象学会2010年 全国大会 (名城大学)	台風による水稻被害量予測モデルの開発	増富祐司、飯泉仁之直 ⁹⁵⁾ 、高橋潔 ³²⁾	184頁

期 日	学会の名称	発 表 テ ー マ	発表者及び 共同研究者	抄録
H22. 3. 18	日本農業気象学会2010年 全国大会（名城大学）	10種の作物に対するオゾンのクリティカルレ ベルの検討	米倉哲志、篠原慎弥 ²⁰ 、伊豆田猛 ²⁰ 、河野 吉久 ⁵¹	163頁
H22. 3. 18	大気環境学会関東支部酸 性雨部会第22回関東酸性 雨講演会（東京都江東区）	酸性雨研究－埼玉県の調査研究活動から －	松本利恵	163頁
H22. 3. 19	第57回応用物理学関係連 合講演会（東海大学）	位相シフトデジタルホログラフィー法におけ るスペックル統計に基づく位相シフト誤差 補償法	片岡基史 ⁴⁾ 、門野博史	159頁
H22. 3. 20	第32回酸性雨問題研究会 シンポジウム （慶應義塾大学）	アンモニアの大気動態と自動車排ガスの影 響	松本利恵	163頁

（注）共同研究者の所属機関名は187ページに一覧にした。

5. 3. 4 その他の研究発表

期 日	発表会の名称	発 表 テ ー マ	発表者及び 共同研究者
H21. 7. 1	大気環境学会シンポジウム 「微小粒子状物質・PM2.5 に関わる現状と課題」 （東京都新宿区）	埼玉県環境科学国際センターにおける微小粒子 の通年観測結果と課題	米持真一
H21. 7. 10	平成21年度全国環境研協 議会関東甲信静支部騒音 ・振動専門部会 （さいたま市）	専門部会35年の歩み	白石英孝
H21. 9. 8	平成21年度全国環境研協 議会関東甲信静支部大気 専門部会（甲府市）	埼玉県VOC対策サポート事業によるVOCの現場 測定事例	梅沢夏実
H21. 9. 9	平成21年度全国環境研協 議会騒音振動担当者会議 （さいたま市）	騒音調査におけるフリーFFTソフトの適用可能性 の検討	佐坂公規
H21. 9. 18	平成21年度全国環境研協 議会廃棄物研究発表会 （名古屋大学）	埋立地ガスの流量測定方法の検討	長森正尚、渡辺洋一
H21. 9. 18	平成21年度全国環境研協 議会廃棄物研究発表会 （名古屋大学）	沖縄県における安定型最終処分場の採掘調査と その結果について	井上豪 ⁹⁶ 、宮城俊彦 ⁹⁶ 仲宗根一哉 ⁹⁶ 、渡口輝 ⁹⁶ 、松田了 ⁹⁷ 、多良間 一弘 ⁹⁷ 、小野雄策 ⁵⁸ 、 川寄幹生、磯部友護
H21. 9. 26	応用生態工学会 分科会 「保全としての放流」 （さいたま市）	ムサシトミヨの現状と再導入に向けて	金澤光
H21. 10. 23	平成21年度全国環境研協 議会関東甲信静支部水質 専門部会（宇都宮市）	元荒川最上流域におけるムサシトミヨ生息地の環 境改善	木持謙
H21. 10. 27	フッ素系界面活性剤研究キ ックオフ会議（つくば市）	バージアンドトラップ抽出－GC/MSによる水中フ ルオロテロマーアルコール類の分析	野尻喜好
H21. 10. 30	第36回環境保全・公害防 止研究発表会（富山市）	埼玉県におけるヒートアイランド現象の実態とク ールアイランドの形成	嶋田知英、米倉哲志、 小川和雄、三輪誠

期 日	発表会の名称	発 表 テ ー マ	発表者及び 共同研究者
H21. 11. 11	UK-Japan WS on coupled crop-climate modelling (Tokyo, Japan)	Impact assessment of climate change on rice production in Asia in comprehensive consideration of uncertainties in future climate projections and my next directions of crop model	Y. Masutomi, K. Takahashi ³²⁾ , H. Harasawa ³²⁾ , Y. Matsuoka ¹⁴⁾
H21. 11. 16	第12回自然系調査研究機関連絡会議 調査研究・活動事例発表会 (伊勢原市)	野生生物の行政捕獲・調査データを用いた生息モデルの検討	嶋田知英
H21. 11. 18	S-8 Informal Meeting for Information Exchange (Tokyo, Japan)	Impact assessment of climate change on rice production in Asia in comprehensive consideration of uncertainties in future climate projections	Y. Masutomi, K. Takahashi ³²⁾ , H. Harasawa ³²⁾ , Y. Matsuoka ¹⁴⁾
H22. 1. 14	Workshop on "NSFC-JST Major International Cooperation Project -Study on Formation Mechanism of Ozone and Secondary Particles in Asian Megacities" (Tsinghua Univ., China)	Outline of fine aerosol measurement and modeling in Kanto Area (FAMIKA)	S. Hasegawa
H22. 1. 18	S-4/5・革新プロ合同ワークショップ (東京都港区)	マルチ気候モデルを用いた気候変化の農業影響評価	増富祐司
H22. 1. 20	「地域の産学官連携による環境技術開発のいま」シンポジウム (さいたま市)	埼玉県環境科学国際センターにおける産学官連携事例ー中小企業の自主的取組を支援する簡便なVOC処理システムの開発ー	米持真一
H22. 1. 20	平成21年度水道研修会 (さいたま市)	さいたま市における紫外線吸収剤の実態調査	木村久美子 ⁷⁾ 、亀田豊
H22. 1. 27	International ad hoc Detection and Attribution (Boulder, USA)	Emission scenario dependencies in climate change assessments of the hydrological cycle	H. Shiogama ³²⁾ , N. Hanasaki ³²⁾ , Y. Masutomi, T. Nagashima ³²⁾ , T. Ogura ³²⁾ , K. Takahashi ³²⁾ , Y. Hijioka ³²⁾ , T. Takemura ³²⁾ , T. Nozawa ³²⁾ , S. Emori ³²⁾
H22. 2. 11	第13回荒川流域再生シンポジウム (嵐山町)	2009年度入間川・越辺川の標識アユ放流調査結果から	金澤光
H22. 2. 20	比企流域懇談会 (小川町)	槻川に魚類 (ウグイ) がすめる川再生について	金澤光
H22. 2. 20	15th AIM International WS (Tsukuba, Japan)	Impact assessment of climate change on rice production in Asia in comprehensive consideration of uncertainties in future climate projections	Y. Masutomi, K. Takahashi ³²⁾ , H. Harasawa ³²⁾ , Y. Matsuoka ¹⁴⁾
H22. 3. 2	上海大学環境与化学工程学院講演会 (中国・上海大学)	Characterization of PM2.5 by continuous observation in CESS, and comparison between roadside air and ambient air in recent year, Japan	米持真一
H22. 3. 16	第44回日本水環境学会年会併設全国環境研協議会研究集会 (福岡大学)	海成堆積物からの有害重金属類溶出特性の解析	石山高

期 日	発表会の名称	発 表 テ ー マ	発表者及び 共同研究者
H22. 3. 27	シンポジウム2010「小山川・元小山川と教育/科学/生活について」(本庄市)	里川再生プロジェクト	木持謙、金澤光、真下敏明 ⁸⁹⁾ 、正田武則 ⁹⁰⁾ 、常田聡 ²⁾ 、関根正人 ²⁾ 、榊原豊 ²⁾

(注) 共同研究者の所属機関名は187ページに一覧にした。

5.3.5 報告書

報 告 書 名	発 行 者	執 筆 分 担	執筆者	発行年	抄録
コンビニエンスストア消費電力実態調査報告書	埼玉県環境科学国際センター、埼玉県温暖化対策課	第1章 はじめに 第2章 調査対象コンビニエンスストアの概要 第3章 調査方法 第4章 調査結果 第5章 調査結果に基づく営業時間短縮によるエネルギー消費・CO ₂ 排出削減効果の推計 第6章 おわりに	竹内庸夫 嶋田知英 米倉哲志 増富祐司	H21	186頁
深夜化するライフスタイル・ビジネススタイルの見直しによる二酸化炭素削減効果の試算	埼玉県環境科学国際センター、埼玉県環境部温暖化対策課	はじめに 1. ライフスタイルの見直し 2. ビジネススタイルの見直し 3. 深夜営業店舗等の営業時間短縮 まとめ	竹内庸夫 嶋田知英 米倉哲志	H21	186頁
平成20年度ムサシトミヨ保護事業報告書	埼玉県環境科学国際センター	第1章 飼育下での繁殖試験 第2章 地下水の水温 第3章 地下水採取量 第4章 生息地における水質測定結果 第5章 移殖適地調査 第6章 生息地における底生動物調査 第7章 ムサシトミヨの遺伝的多様性を解析するためのDNAマーカーの開発	金澤光 三輪誠 高橋基之 田中仁志 木持謙 石山高 亀田豊 見島伊織 池田和弘 柿本貴志	H21	186頁

5.3.6 センター報

種 別	課 題 名	執 筆 者	掲 載 号
総合報告	微動探査法の実用化研究	松岡達郎	第9号、68-90 (2009)
資 料	臭素系難燃加工剤(ポリブロモジフェニルエーテル)による県内河川底質の汚染実態	細野繁雄、蓑毛康太郎、大塚宜寿、茂木守、杉崎三男	第9号、91-95 (2009)

5.4 講師・客員研究員等

(1) 大学非常勤講師

期 日	講 義 内 容	講義場所	氏 名
H21年度	東北大学大学院客員教授 「環境生態工学演習」	東北大学	須藤隆一
H21年度後期	東北文化学園大学大学院客員教授 「環境情報工学特別講義」	東北文化学園 大学	須藤隆一
H21年度	埼玉大学大学院理工学研究科連携教授(連携大学院) 「数値解析データ情報処理(E)」、「環境応用光学」、 「光散乱応用センシング特論」	埼玉大学	門野博史
H21年度	埼玉大学大学院理工学研究科連携准教授(連携大学院) 「環境計測学」、「水環境汚染特論」、「土壌地下水汚染特論」	埼玉大学、 環境科学国際 センター	石山高
H22. 1. 22、 H22. 2. 12	大阪大学非常勤講師 「環境リスク管理のための人材育成プログラム;安全衛生リスク管理論」	大阪大学	亀田豊
H21年度後期	埼玉大学非常勤講師 「水環境学」	埼玉大学	柿本貴志
H21年度	埼玉大学大学院理工学研究科連携准教授(連携大学院) 「自然環境評価特論」、「大気環境測定演習」、「汚染負荷評価」	埼玉大学、 環境科学国際 センター	三輪誠

(2) 客員研究員

委 嘱 期 間	相 手 機 関	氏 名
H21. 4. 1~H22. 3. 31	独立行政法人 国立環境研究所	須藤隆一
H21. 11. 1~H22. 3. 31	独立行政法人 国立環境研究所	長谷川就一
H21. 4. 1~H22. 3. 31	独立行政法人 国立環境研究所	木持謙
H21. 4. 1~H22. 3. 31	神奈川大学総合理学研究所	亀田豊
H21. 4. 1~H22. 3. 31	立命館大学	見島伊織
H21. 4. 1~H22. 3. 31	独立行政法人 国立環境研究所	倉田泰人
H21. 4. 1~H22. 3. 31	独立行政法人 国立環境研究所	渡辺洋一
H21. 4. 1~H22. 3. 31	独立行政法人 国立環境研究所	長森正尚
H21. 4. 1~H22. 3. 31	独立行政法人 国立環境研究所	川寄幹生
H21. 4. 1~H22. 3. 31	独立行政法人 国立環境研究所	長谷隆仁
H21. 4. 1~H22. 3. 31	独立行政法人 国立環境研究所	磯部友護
H18. 10. 1~H21. 12. 31	中国遼寧大学資源環境学院	王効挙
H22. 1. 1~H26. 12. 31	中国遼寧大学環境学院	王効挙
H21. 4. 1~H22. 3. 31	独立行政法人 産業技術総合研究所	堀井勇一
H21. 4. 1~H22. 3. 31	独立行政法人 産業技術総合研究所	八戸昭一
H21. 4. 1~H22. 3. 31	東京大学地震研究所	濱元栄起
H21. 4. 27~H22. 3. 31	大学共同利用機関法人 総合地球環境学研究所	濱元栄起

(3) 研修会・講演会等の講師

期 日	名 称	開催場所	氏 名
H21. 4. 16	アジア開発銀行気候変動ワークショップ 「地球温暖化と埼玉県の状況」	環境科学国際センター	竹内庸夫
H21. 4. 23	環境部大気・水質担当新任職員研修 「環境科学国際センターの研究紹介」	さいたま市	田中仁志

期 日	名 称	開催場所	氏 名
H21. 4. 24	加須郷土史研究会総会特別講演会「地球環境問題について」	加須市	竹内庸夫
H21. 4. 25	アサガオ調査説明会	さいたま市	三輪誠
H21. 4. 26	アユ遡上調査「標識アユ研修会」	川島町	金澤光
H21. 5. 1	アサガオ調査説明会	狭山市	三輪誠
H21. 5. 7	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター講演 「湖沼における課題と今後の展望」	大津市	須藤隆一
H21. 5. 8	第3回E-TEC&KIESSジョイントセミナー 「生態工学的手法による水環境保全」	大津市	須藤隆一
H21. 5. 9	アサガオ調査説明会	環境科学国際センター	三輪誠
H21. 5. 10	アサガオ調査説明会	環境科学国際センター	三輪誠
H21. 5. 11	北川辺町環境学習「地球温暖化の話」	北川辺町	米倉哲志
H21. 5. 13	土壌汚染対策推進事業に係る土壌簡易分析研修 「VOCの分析(土壌ガス調査)及び土壌の採取、重金属等の 分析」 「土壌・地下水汚染調査報告書における地質情報の見方」 「土壌汚染調査報告書に基づく汚染評価と汚染原因の解析」	環境科学国際センター	高橋基之 長森正尚 佐坂公規 濱元栄起 八戸昭一 石山高
H21. 5. 14	鴻巣市立川里中学校総合学習「大気について」	環境科学国際センター	松本利恵
H21. 5. 15	鴻巣市立鴻巣南中学校総合学習「ビオトープについて」	環境科学国際センター	嶋田知英 木持謙
H21. 5. 16	彩の国環境大学修了生の会講演 「大気中に浮遊する微小粒子状物質(PM2.5)の特徴と埼玉県の 現状」	さいたま市	米持真一
H21. 5. 16	アサガオ調査説明会	環境科学国際センター	三輪誠
H21. 5. 21	里川再生クリニック(いきがい大学卒業生)	環境科学国際センター	田中仁志
H21. 5. 26	秩父環境管理事務所 里川づくり事業・環境学習	小鹿野町立長若小学校	石山高 池田和弘
H21. 5. 27	彩の国いきがい大学講座「大気汚染の現状と課題」	伊奈町	竹内庸夫
H21. 5. 28	秩父環境管理事務所 里川づくり事業・環境学習	小鹿野町立三田川小学 校	田中仁志 木持謙
H21. 5. 28	JICA集団研修 廃棄物総合管理セミナー 「最終処分場の環境汚染対策」	環境科学国際センター	川寄幹生
H21. 5. 29	埼玉県フロン回収・処理推進協議会技術研修会 「環境中のフロン濃度の動向」	さいたま市	竹内庸夫
H21. 5. 29	秩父環境管理事務所 里川づくり事業・環境学習	小鹿野町立小鹿野小学 校	高橋基之 田中仁志 見島伊織
H21. 6. 3	彩の国いきがい大学「地下世界を探る」	環境科学国際センター	佐坂公規
H21. 6. 3	生態園観察会	環境科学国際センター	嶋田知英
H21. 6. 5	東北大学大学院環境機能利用工学(三菱マテリアル)寄附講座 キックオフシンポジウム「環境研究のめざすもの」	東北大学	須藤隆一
H21. 6. 11	環境ビジネスフォーラム埼玉「環境ビジネスの振興と課題」	さいたま市	須藤隆一
H21. 6. 12	オートアナライザーシンポジウム「環境基準の課題と展望」	東京都千代田区	須藤隆一
H21. 6. 12	本庄市立藤田小学校総合的学習 「小山川と元小山川の生き物調査」	本庄市	金澤光 増富祐司
H21. 6. 16	菖蒲南中学校総合学習講座「温暖化について」	環境科学国際センター	竹内庸夫
H21. 6. 16	東松山環境管理事務所 里川づくり事業・環境学習 小川町・兜川 体験学習	小川町立竹沢小学校	田中仁志 池田和弘

期 日	名 称	開催場所	氏 名
H21. 6. 17	川口市立川口総合高校・出前講座 「埼玉の里川 河川水の特徴と水質浄化」	川口市立川口総合高校	高橋基之
H21. 6. 19	日本水環境学会関東支部総会・特別講演 「里川の再生に向けて」	環境科学国際センター	須藤隆一
H21. 6. 20	川の指導者養成講座「川という自然の理解」	長瀨町	金澤光
H21. 6. 20	生態園観察会	環境科学国際センター	嶋田知英
H21. 6. 20	アサガオ調査説明会	環境科学国際センター	三輪誠
H21. 6. 21	柳瀬川自然学習観察会	富士見市	金澤光
H21. 6. 21	アサガオ調査説明会	環境科学国際センター	三輪誠
H21. 6. 23	立正佼成会出前講座「日常生活と水環境」	さいたま市	木持謙
H21. 6. 23	ムサシトミヨ保全推進協議会総会 「ムサシトミヨの現状と今後の課題」	熊谷市	金澤光
H21. 6. 25	彩の国いきがい大学講習会「生物多様性とその保全」	蕨市	嶋田知英
H21. 6. 26	篠津川辺探検隊「桶川市立加納小学校 水田の自然観察会」	桶川市	金澤光
H21. 6. 26	地球温暖化対策アクション会議「地球温暖化の話」	羽生市	竹内庸夫
H21. 6. 29	大気規制に係る測定方法等研修会 「ダイオキシン類の分析測定に係る注意点、測定結果の見方等」 「石綿の分析方法の概要」「VOC測定の概要」	環境科学国際センター	大塚宜寿 米倉哲志
H21. 6. 29	熊谷市ムサシトミヨをまもる会総会 「平成20年度ムサシトミヨ保護事業報告」	熊谷市	金澤光
H21. 6. 30	彩の国いきがい大学講習会「生物多様性とその保全」	入間市	嶋田知英
H21. 7. 2	加須市立加須北中学校「地域ふれあい体験講座」 「埼玉の里川ー河川と人との関わりを考える」	加須市立加須北中学校	高橋基之
H21. 7. 4	新座市環境フェスティバル2009「里川の再生をめざして」	新座市	須藤隆一
H21. 7. 11	彩の国環境地図作品展地図作り教室	環境科学国際センター	嶋田知英
H21. 7. 12	田んぼの生き物調査	川島町	金澤光 木持謙 増富祐司 阿部香
H21. 7. 12	県の魚「ムサシトミヨの現状について」	熊谷市	金澤光
H21. 7. 12	小川町下里地区田んぼのいきもの観察会	小川町	嶋田知英
H21. 7. 14	JICA国別研修 「インドネシア広域都市圏廃棄物管理手法(実務責任者)」	環境整備センター	長森正尚
H21. 7. 15	AGCポリマー建材(株)社内勉強会「埼玉県の大気環境」	久喜市	竹内庸夫
H21. 7. 15	彩の国いきがい大学・出前講座「湧水と環境保全」	伊奈町	高橋基之
H21. 7. 18	こどもホタルンジャー研修会「環境の保全と指標」	刈谷市	須藤隆一
H21. 7. 18	生態園体験教室「川の生物で環境調査をしよう」	環境科学国際センター	田中仁志 池田和弘
H21. 7. 20	県民実験教室「大気の性質を調べてみよう」	環境科学国際センター	松本利恵
H21. 7. 21	彩の国いきがい大学「建設廃棄物の再資源化と不法投棄」	環境科学国際センター	倉田泰人
H21. 7. 23	夏休み大学探検2009・ジュニアハイスクールフォーラム 「微生物が地球を救う」	東北大学	須藤隆一
H21. 7. 23	こどもホタルンジャー指導者養成講座	秦野市	木持謙
H21. 7. 24	蓮田市研修会「山ノ神沼の水質浄化」	蓮田市	田中仁志
H21. 7. 24	生態園観察会	環境科学国際センター	嶋田知英
H21. 7. 25	こどもホタルンジャー研修会「環境の保全と指標」	広島市	須藤隆一

期 日	名 称	開催場所	氏 名
H21. 7. 25	県民実験教室 「水の性質を調べてみよう」	環境科学国際センター	高橋基之
H21. 7. 26	ムサシトミヨ観察会	熊谷市	金澤光
H21. 7. 30	スーパーサイエンススクール研修 「地球環境問題と埼玉県環境科学国際センターの取組」	環境科学国際センター	竹内庸夫
H21. 7. 30	行田市内小中学校環境教育主任・出前講座 「日常生活と水環境」	環境科学国際センター	木持謙
H21. 7. 31	ムサシトミヨ観察会	熊谷市	金澤光
H21. 8. 1	川の探検隊	本庄市	金澤光 増富祐司
H21. 8. 8	生態園体験教室「昆虫の標本を作ろう」	環境科学国際センター	嶋田知英
H21. 8. 10	PRB処理に関する講演会 「Control Measures Against Environmental Contamination from Landfills」 「General waste management in SAITAMA prefecture」 「Demonstration of PRB system in Japan」	タイ王国・ラチャブリー県	渡辺洋一 川寄幹生 磯部友護
H21. 8. 17	山ノ神沼水質浄化事業説明会	蓮田市	田中仁志
H21. 8. 23	熊谷市ムサシトミヨ保護センター親水イベント 「ムサシトミヨの生態」	熊谷市	金澤光 木持謙
H21. 8. 23	魚を捕る文化:漁具漁法から魚を守る工夫	東松山市	金澤光
H21. 8. 25	第18回日本水環境学会市民セミナー 「温暖化、水とくらしはどうか？ どうする？(Ⅱ)～水環境にお ける賢い適応へ向けて～」	東京都世田谷区	須藤隆一
H21. 8. 29	彩の国環境大学校開校式基調講座	環境科学国際センター	須藤隆一
H21. 8. 29	川ガキ養成東部塾	越谷市	木持謙 見島伊織
H21. 8. 29	男堀川の生き物観察会	本庄市	金澤光
H21. 9. 2	彩の国いきがい大学「酸性雨について」	伊奈町	松本利恵
H21. 9. 3	彩の国いきがい大学「騒音・振動について」	伊奈町	白石英孝
H21. 9. 7	浦和ロイヤルパインズホテル研修会「エコ社会をめざして」	さいたま市	須藤隆一
H21. 9. 13	身近な環境観察局新規参加者研修会「指標生物調査」	環境科学国際センター	嶋田知英
H21. 9. 17	韓国済州地域環境技術開発セミナー 「気候変動の水環境への影響と適応策」 「循環型社会と水環境」	韓国・済州市	須藤隆一 田中仁志
H21. 9. 19	本庄市男女共生大学・自然観察学習会(小山川)	本庄市	金澤光 木持謙
H21. 9. 25	中国長春市講演会「気候変動の水環境影響と適応策」	中国・長春市	須藤隆一
H21. 9. 25	塔の会学習会「地球環境問題」	環境科学国際センター	竹内庸夫
H21. 9. 25	水質管理支援技術セミナー「私たちの生活と化学物質」	和光市	野尻喜好
H21. 9. 25	吉林省農業科学院農業環境資源研究センター講演会 「地球温暖化の水環境への影響及び適応策」 「土壌汚染とその修復技術」	中国・吉林省	須藤隆一 王効挙
H21. 9. 26	瀋陽大学講演会「気候変動の水環境影響と適応策」	中国・瀋陽大学	須藤隆一
H21. 9. 27	遼寧大学講演会 「気候変動の水環境影響と適応策」 「日本の水環境保護及び排水処理技術の新動向」	中国・遼寧大学	須藤隆一 王効挙
H21. 9. 28	中国瀋陽市講演会「気候変動の水環境影響と適応策」	中国・瀋陽市	須藤隆一
H21. 10. 6	公害防止主任者資格認定講習「大気関係」	さいたま市	米倉哲志

期 日	名 称	開催場所	氏 名
H21. 10. 6	深谷中学校 里川づくり事業・環境学習「身近な川を考える」	深谷市立深谷中学校	木持謙
H21. 10. 7	国立保健医療科学院短期講座「水道工学研修 「水源保全システム」	和光市	須藤隆一
H21. 10. 7	公害防止主任者資格認定講習「大気関係」	さいたま市	武藤洋介 梅沢夏実
H21. 10. 7	生活クラブ生協環境に関する学習会「地球環境問題概論」	さいたま市	竹内庸夫
H21. 10. 8	大分県講演「環境汚染物質の水生生物への影響について」	大分市	須藤隆一
H21. 10. 8	公害防止主任者資格認定講習「ダイオキシン類関係」	さいたま市	野尻喜好
H21. 10. 10	NPO法人環境生態工学研究所総会基調講演 「水環境保全の新たな展開－水質保全二法から50年を経過して－」	仙台市	須藤隆一
H21. 10. 10	本庄市男女共生大学・自然観察学習会(元小山川)	本庄市	金澤光 木持謙
H21. 10. 14	日本薬科大学早期体験学習学生研修 「化学物質と私たちの暮らし」	環境科学国際センター	野尻喜好
H21. 10. 15	白岡高校環境学習講演会「地球環境問題概論」	埼玉県立白岡高校	竹内庸夫
H21. 10. 15	埼玉大学付属中学校・出前講座 「埼玉の里川－河川と人との関わりを考える」	環境科学国際センター	高橋基之
H21. 10. 17	彩の国環境大学「健全な水循環と里川の再生」	環境科学国際センター	高橋基之
H21. 10. 18	柳瀬川ミヤコタナゴ保存会「柳瀬川のミヤコタナゴ復元の課題」	所沢市	金澤光
H21. 10. 22-23	公害防止主任者資格認定講習「水質関係」	さいたま市	高橋基之 田中仁志 石山高 池田和弘
H21. 10. 24	NPO法人川・まち・人プロデューサーズ市民総合大学公開講座 「川ガキ再生のために“今”できること」	本庄市	須藤隆一
H21. 10. 24	彩の国環境大学「気になる暮らしの化学物質」	環境科学国際センター	細野繁雄
H21. 10. 25	自然環境講座・生態園観察会 騎西町ゲンキッズ事業	環境科学国際センター	嶋田知英
H21. 10. 26	ものづくり大学講義「地球温暖化の話」	行田市	米倉哲志
H21. 10. 29	平成21年度埼玉県東部地域環境事務研究会視察研修会 「悪臭の嗅覚測定法について」	環境科学国際センター	梅沢夏実
H21. 10. 31	彩の国環境大学基礎講座 「埼玉県の温暖化の実態とその影響～温暖化の生物・農業・健康への影響～」	環境科学国際センター	嶋田知英
H21. 11. 4	彩の国いきがい大学「生物多様性とその保全」	伊奈町	嶋田知英
H21. 11. 5	千葉県山武市・九十九里町市民団体視察研修 「里川再生テクノロジーについて」	環境科学国際センター	高橋基之
H21. 11. 5	鳩ヶ谷高校・出前講座「日常生活と水環境」	環境科学国際センター	木持謙
H21. 11. 6	埼玉県大気環境研究会「埼玉県におけるPM2.5調査結果について－環境科学国際センターの取組」	さいたま市	米持真一
H21. 11. 10	熊谷の環境を考える講座「埼玉県の大气環境」	熊谷市	竹内庸夫
H21. 11. 10-11	公害防止主任者資格認定講習(水環境課)	さいたま市	白石英孝 佐坂公規 濱元栄起
H21. 11. 13	JICA集団研修気象業務能力向上 「Impact assessment of climate change」	東京都千代田区	増富祐司
H21. 11. 14	県民の日特別企画 サイエンスショー「-196℃の世界」	環境科学国際センター	梅沢夏実
H21. 11. 17	熊谷の環境を考える講座「地球環境問題概論」	熊谷市	竹内庸夫

期 日	名 称	開催場所	氏 名
H21. 11. 17	彩の国いきがい大学 「建設廃棄物の再資源化と不法投棄」	環境科学国際センター	倉田泰人
H21. 11. 17	生態園観察会	環境科学国際センター	嶋田知英
H21. 11. 25	栗橋町河川浄化協議会・出前講座 「埼玉の里川ー河川と人との関わりを考える」	環境科学国際センター	高橋基之
H21. 11. 26	環境修復と浄化国際フォーラム 「日本における水環境保全及び汚水処理技術について」	中国・貴州省	王効挙
H21. 11. 30	吉野原工業団地環境コミュニケーション 「吉野原工業団地周辺環境調査結果について」	さいたま市	茂木守
H21. 12. 1	仙台市水道局講演 「低炭素社会の形成に向けてー気候変動の影響とその適応策ー」	仙台市	須藤隆一
H21. 12. 1	JICA地域別研修 アジア有害廃棄物管理・適正処理 「最終処分場の環境汚染対策」	横浜市	川寄幹生
H21. 12. 1	生態園観察会	環境科学国際センター	嶋田知英
H21. 12. 4	エネルギーモデル検討委員会 「AIMにおける最新の農業影響評価研究について」	東京都港区	増富祐司
H21. 12. 6	第12回留日学者と21世紀中国発展国際討論会 「Phytoremediation of Soils Contaminated with Persistent Organic Pollutants」	昭和大学	王効挙
H21. 12. 8	平成21年度産業技術連携推進会議知的基盤部会地質地盤情報 文科会地下構造データベース研究会 「埼玉県における地盤情報の公開と活用」	札幌市	八戸昭一
H21. 12. 11	春日部市市民大学「埼玉と温暖化」	春日部市	米倉哲志
H21. 12. 13	国際ロータリー第2770地区ローターアクトライラ委員会研修セミナー「地球環境問題概論」	さいたま市	竹内庸夫
H21. 12. 17	さいたま市水道局職員研修 「静かに進む地下水汚染」「日常生活と水環境」	さいたま市	高橋基之 木持謙
H21. 12. 17	出前講座「埼玉県の温暖化の実態とその影響～温暖化の生物・ 農業・健康への影響～」	羽生市	嶋田知英
H21. 12. 21	第8回オープンフォトリクスセミナー2009「レーザー干渉計測」	さいたま市	門野博史
H22. 1. 7	石油資源開発株式会社談話会 「微動探査法による苫小牧勇弘地区の地下構造調査」	東京都千代田区	白石英孝
H22. 1. 7	彩の国いきがい大学「埼玉県の温暖化の実態とその影響～温 暖化の生物・農業・健康への影響～」	川越市	嶋田知英
H22. 1. 12	平成21年度都県市環境研究所ヒートアイランド連絡会 「埼玉県のヒートアイランドの現状」	東京都江東区	米倉哲志
H22. 1. 12	彩の国いきがい大学「埼玉県の温暖化の実態とその影響～温 暖化の生物・農業・健康への影響～」	熊谷市	嶋田知英
H22. 1. 13	中国科学院亜熱帯農業生態研究所講演会 「日本における環境保全型農業について」	中国・湖南省	王効挙
H22. 1. 21	埼玉県環境科学国際センター講演会 「地球温暖化の埼玉県への影響」 「一般廃棄物焼却残さ等のリサイクルの方向性」 「埼玉県の魚「ムサシトミヨ」の保護への取り組み」	さいたま市	嶋田知英 倉田泰人 金澤光
H22. 1. 22	日本水環境学会セミナー「水辺の再生」 「“川の国 埼玉”の実現に向けた里川再生の取り組み」	東京都千代田区	高橋基之

期 日	名 称	開催場所	氏 名
H22. 1. 23	NPO法人環境生態工学研究所セミナー 「我が国の水環境保全施策と今後の課題－小規模排水対策を中心として－」	仙台市	須藤隆一
H22. 1. 23	彩の国環境大学修了生の会平成21年度第2回例会 「私たちの生活と化学物質」	さいたま市	細野繁雄
H22. 1. 24	さいたまマイオンズクラブ・出前講座「日常生活と水環境」	さいたま市	木持謙
H22. 1. 25	加須市市民講座「地球温暖化の話」	加須市	米倉哲志
H22. 1. 28	メガトレンド・セミナー 「水環境保全のための目標および基準－1,4-ジオキサン基準化の動向と今後の見通しを中心として－」	東京都千代田区	須藤隆一
H22. 1. 28	いずみ高校環境学習「大気汚染と植物」	環境科学国際センター	米倉哲志
H22. 1. 29	グローバルナノアプリケーションセミナーⅡ 「光を使ったナノ計測」	埼玉大学	門野博史
H22. 1. 30	彩の国環境大学修了生フォローアップ講座 「地球温暖化の埼玉県への影響」	環境科学国際センター	嶋田知英
H22. 2. 1	JICA地球温暖化対策研修 「Impact and Adaptation Policy Assessment of Climate Change on Agriculture」	つくば市	増富祐司
H22. 2. 2	埼玉県大気環境研究会「ビジネススタイルライフスタイルの見直しによる二酸化炭素削減効果の試算」	さいたま市	竹内庸夫
H22. 2. 2	JICA・マレーシア国別研修「土壌汚染・有害廃棄物管理」 「廃棄物による環境汚染対策」	横浜市	川寄幹生
H22. 2. 5	鴻巣市教育研究会出前講座 「私たちの生活と化学物質(生活編)」	環境科学国際センター	細野繁雄
H22. 2. 10	熊谷市立大幡中学校・出前講座「日常生活と水環境」	熊谷市立大幡中学校	木持謙
H22. 2. 10	彩の国いきがいの大学「化学物質をめぐる諸問題」	伊奈町	細野繁雄
H22. 2. 10	本庄市立藤田小学校総合的学習 「小山川と元小山川の生き物調査」	本庄市	金澤光 木持謙 増富祐司
H22. 2. 16-17	平成21年度産業廃棄物処理等技術研修会 「不法投棄現場における現場調査法、現場修復法」 「硫化水素発生事案への対応技術」	岡山市	川寄幹生 磯部友護
H22. 2. 17	市町村騒音・振動担当職員研修(水環境課)	さいたま市	佐坂公規
H22. 2. 19	埴川の環境を考える懇談会 「“川の国 埼玉”の実現に向けて－里川再生と水質浄化－」	八潮市	高橋基之
H22. 2. 21	身近な環境観察局ワーキンググループ活動成果発表会 「光化学スモッグによるアサガオ被害調査結果報告」	環境科学国際センター	三輪誠 嶋田知英
H22. 2. 23	騎西町教育研究会教育部・出前講座「日常生活と水環境」	環境科学国際センター	木持謙
H22. 2. 23	中央環境管理事務所 里川づくり事業・環境学習	鳩ヶ谷市立南小学校	石山高
H22. 2. 26	第3回専門研修委員会「アスベストセミナー」 「家屋解体現場における石綿含有廃棄物について」	さいたま市	川寄幹生
H22. 3. 3	オゾンの植物影響に関する研究集会 基調講演「埼玉県における対流圏オゾンの動態と植物影響」	静岡県立大学	三輪誠
H22. 3. 4	羽生市環境講座「地球温暖化」	羽生市	竹内庸夫
H22. 3. 7	出前講座「生物多様性とその保全」	さいたま市	嶋田知英
H22. 3. 12	本庄市立藤田小学校総合的学習 「小山川と元小山川の生き物調査」	本庄市立藤田小学校	金澤光

期 日	名 称	開催場所	氏 名
H22. 3. 13	第9回環境まちづくりフォーラム・埼玉 「地球温暖化の影響と対策」	川越市	須藤隆一
H22. 3. 13	科学技術シンポジウム「埼玉県の温暖化の現状」	さいたま市	米倉哲志
H22. 3. 15	環境共生地熱開発のための計測・探査技術に関する調査研究 委員会「微動探査法の概要」	東京都千代田区	白石英孝
H22. 3. 17	埼玉大学学園衛生施設見学実習「悪臭・嗅覚について」	環境科学国際センター	梅沢夏実
H22. 3. 18	平成21年度水生生物講演会「水生生物の保全に向けて」	東京都新宿区	須藤隆一
H22. 3. 19	水環境課・里川づくり発表会「里川再生テクノロジーについて」	さいたま市	高橋基之
H22. 3. 20	里川づくり事業・環境学習「水の汚れの原因を調べよう」	川口市立芝東小学校	石山高
H22. 3. 30	環境ネットワークよしかわ・出前講座「日常生活と水環境」	環境科学国際センター	木持謙

5.5 他研究機関との連携

埼玉県が直面している環境に関する諸問題へ対応するための試験研究や環境面での国際貢献など、環境科学国際センターが環境に関する総合的中核機関として機能するためには、当センターにおける研究活動の高度化、活性化をより一層図っていく必要がある。そこで、大学や企業等との共同研究や研究協力を積極的に推進するとともに、他の研究機関から客員研究員を迎えて研究交流や情報交換を図っている。

また、早稲田大学理工学術院総合研究所と研究交流協定(平成12年6月)、埼玉大学と教育研究の連携・協力に関する覚書(平成14年3月)及び立正大学環境科学研究所と研究交流協定(平成20年5月)を締結し、大学と共同研究、人的交流等の連携を推進している。

(1) 大学・民間企業等との共同研究・研究協力

平成21年度は、次の30課題を実施した。

共同研究・研究協力一覧

相手方	研究課題名及び概要	担当者
早稲田大学理工学術院 名古屋俊士 教授	「微細立体構造を有する光触媒複合材料を用いたVOC処理装置の開発」 磁場とめっき法を応用した独自の手法で立体格子構造体を作製し、この表面に光触媒を複合化させた材料を開発する。これを用いた各種VOCの分解特性を検討する。	大気環境担当 米持真一
早稲田大学理工学術院 名古屋俊士 教授 柴田科学(株)	「光触媒特性を利用した新規デニューダの開発」 酸化チタンの光誘起親水化現象をデニューダに応用するための研究を行う。	大気環境担当 米持真一
吉野電化工業(株)	「中小企業を対象としたVOC処理システムの開発」 光触媒のメリットを生かした中小企業向けのVOC処理装置を開発するため、独自に開発した立体格子構造を持つ担体に光触媒を担持させる手法および処理装置試作機の作製について検討を行う。	大気環境担当 米持真一
(財)電力中央研究所 (独)国立環境研究所	「気温とオゾン濃度上昇が水稻の生産性におよぼす複合影響評価と適応方策に関する研究」 国内外の主要水稻品種の収量・品質におよぼす温度とオゾンの複合影響を実験的に解明するとともに、影響評価のための分子マーカーを探索し、評価手法の開発を行う。	大気環境担当 米倉哲志 自然環境担当 嶋田知英 三輪誠
(独)国立環境研究所アジア 自然共生グループ広域大気 モデリング研究室 大原利真 室長 名古屋市環境科学研究所他 地方公共団体研究機関48機 関、愛媛大学、中部大学、 九州大学、奈良女子大学、 千葉大学、(財)電力中央研 究所	「光化学オキシダントと粒子状物質等の汚染特性解明に関する研究」 各自治体の大気環境時間値データの整備を継続し、相互比較検討を行うことで地域的な汚染の特徴を明らかにし、光化学オキシダントと粒子状物質等の汚染特性や発生原因を解明することにより、その成果を自治体や国が行うべき大気汚染対策に活用する。	大気環境担当 武藤洋介

相手方	研究課題名及び概要	担当者
(独)国立環境研究所アジア 自然共生グループ広域大気 モデリング研究室 大原利真 室長	「関東地域における広域大気汚染のモデル研究」 光化学オキシダントおよび浮遊粒子状物質などの広域大気汚染を予測するために、国立環境研究所で開発中の「大気汚染予測システム」の評価・検討および精度向上のための観測を共同で行う。	大気環境担当 米持真一
さいたま市健康科学研究センター	「微小粒子状物質(PM2.5)による大気汚染状況の研究」 健康影響が懸念されている粒径2.5 μ m以下の微小粒子状物質(PM2.5)について、埼玉県・さいたま市内の複数地点で質量濃度や化学組成を調査し、大気汚染状況の実態把握を行う。	大気環境担当 米持真一
福島大学 東北大学 (株)フジタ	「生態工学技法としての沈水植物再生による湖沼の水環境回復と派生バイオマスリサイクル統合システムの開発」 沈水植物を利用した持続可能な水環境回復のために、沈水植物の群落再生手法、水質浄化機能の定量化、派生バイオマスの回収手法および有用資源としてのリサイクル技術を開発し、地域に適した地産地消型システムを確立する。	水環境担当 田中仁志 見島伊織 池田和弘 柿本貴志
ジューエルサイエンス(株)	「海成堆積物からの重金属類溶出特性の解析」 海成堆積物からの重金属類溶出特性を把握するとともに、溶出を促進する因子について元素ごとに解析する。	水環境担当 石山高 地質地盤担当 八戸昭一
埼玉大学 地圏科学研究センター 小口千明 准教授	「自然地層からの重金属類の溶出と鉱物的特性に関する研究」 土壌・地下水汚染の防止に資するため、県内の自然地層を対象として重金属類の溶出特性を制御する地層の構成鉱物の特徴を把握する。	水環境担当 石山高 地質地盤担当 八戸昭一
埼玉大学大学院 理工学研究科 河村清史 教授	「自然由来土壌汚染の評価ー海成堆積層からの重金属類溶出特性の解析」 土壌・地下水汚染の防止に資するため、県南東部の中川低地を中心とした地質試料を用いて土壌溶出量試験を実施し、海成堆積層から溶出する可能性の高い重金属類を特定するとともに、その特性を把握する。	水環境担当 石山高 地質地盤担当 八戸昭一
日本大学 理工学部土木工学科 吉田征史 専任講師 茨城大学 工学部都市システム工学科 藤田昌史 講師	「活性汚泥モデルの活用による下水道処理プロセスからの温室効果ガス発生抑制の検討」 下水道処理プロセスにおける有機物、窒素、リンの反応が解析可能である活性汚泥モデルを用いて、これらの物質反応を把握すると同時に、削減可能なエネルギー消費量を算定し、それに伴う温室効果ガスの発生抑制効果について検討する。	水環境担当 見島伊織
神奈川大学 理学部化学科 大石不二夫 教授	「温暖化にともなう水環境の長期変化のモニタリング」 河川と沿岸海域に定点観測地点を設定し、一年間の特定の時期に、物理・化学・生物学領域のさまざまな測定項目について、継続的に観測・測定を行う。「長期間の観測・測定」を継続して行うことで、「近未来に生ずることが予測される気候変動」が地球環境に与える影響を明らかにする。	水環境担当 亀田豊

相手方	研究課題名及び概要	担当者
北海道大学大学院 工学研究科 船水尚行 教授	「環境中に排出される人由来医薬品の発生源における直接電解酸化処理」 尿を介して体外へ、そして最終的に環境中へ排出される医薬品の電気化学的酸化処理に関する研究を行う。電気化学的酸化処理における医薬品の反応経路を解明するとともに、尿中の共存物質による医薬品処理妨害影響の評価・軽減法の提案、尿中医薬品処理に適した電極の選択・再生法に関する検討を行い、環境中への医薬品排出量を効率的に削減できる要素技術を開発する。	水環境担当 柿本貴志
さいたま市健康科学研究センター	「環境水中における紫外線吸収剤濃度の把握」 河川水中の紫外線吸収剤の分析方法を確立する。また、河川水中の濃度レベルの把握及び季節変動の把握を行う。	水環境担当 亀田豊
早稲田大学 真下建設(株)	「ゼオライトろ床と植栽を組み合わせた里川技術の開発」 植栽浄化法とビオトープの長所を抽出・融合した「里川再生技術」と、住民による作業を想定した持続的維持管理手法の開発を行う。浄化効率や維持管理特性等の浄化施設の視点と、水生生物等への生息場所としての有効性等のビオトープの視点から研究開発を進める。また、他サイトへの適用も見据えた仕様設計のための知見を蓄積するとともに、施設の維持管理や生物観察会への学校や地域住民の参加を積極的に促し、地域で持続可能な技術を目指す。	水環境担当 木持謙 自然環境担当 金澤光
(独)国立環境研究所	「水平型浸透性反応層による有害物質捕捉技術の確立と長期性能評価」 水平型浸透性反応層を設置した大型模擬埋立層を用いて、廃棄物から溶出する有害物質の捕捉効果の継続性の確認を行う。	廃棄物管理担当 渡辺洋一
(独)国立環境研究所 山田正人 主任研究員	「埋立地ガスならびに層内保有水を対象とした最終処分場安定化モニタリング」 廃棄物最終処分場の安定化モニタリング技術を確立するため、非破壊診断法に注目した、①ガス組成及び流量の空間的・時系列的変動、②内部保有水の量及び質の時系列的変動及び③微生物指標を用いた安定化評価の調査・研究を行う。	廃棄物管理担当 長森正尚 長谷隆仁
(独)国立環境研究所 山田正人 主任研究員	「循環型社会物流システムに適合した最終処分手法の開発」 環境面及び循環型社会からみた廃棄物の最終処分システムを再構築するため、廃棄物の中継基地を担ってきた積替保管または中間処理施設が有する質変換機能に、化学物質の管理機能や安定地盤材評価機能を付加する。さらに、この施設を経由した廃棄物の新たな質的分類を行い、これらの質に合わせた埋立地の構造や管理手法を構築する。	廃棄物管理担当 渡辺洋一 磯部友護
(独)国立環境研究所 山田正人 主任研究員	「廃棄物の安定化に着目した品質評価技術の開発」 現在行われている重金属類を対象とした溶出試験と化学分析による最終処分場への廃棄物搬入基準に加え、廃棄物の安定化ポテンシャルの評価技術として、生分解性と生態毒性の判定方法の開発を行う。	廃棄物管理担当 倉田泰人 川崎幹生

相手方	研究課題名及び概要	担当者
埼玉大学大学院 理工学研究科 川本健 准教授	「廃棄物処分場埋立地における土壌ガス挙動のモデル化と環境リスク評価の構築」 実処分場においてガスフラックスや湿度分布をモニタリングするとともに、採取した覆土等のガス拡散・移流・分配に関するパラメータを実測し、処分場内におけるガスの挙動を解明する。	廃棄物管理担当 倉田泰人 長森正尚
高知大学 北海道大学大学院 (独)国立環境研究所 岡山大学大学院 北見工業大学 京都大学大学院 鳥取大学大学院	「気候変動を考慮した農業地域の面的水管理、カスケード型資源循環システムの構築」 食料生産の場である農業地域の持続可能な水処理を実現するシステムを構築するため、排出源における集中処理が可能な都市域とは異なり排出源が面的に分散している農業地域において、「面的」な水処理技術を構築する。また、農業地域における適切な循環システムを構築するため、バイオマス資源の質と分布状況に応じた「カスケード型資源循環システム」を構築する。	廃棄物管理担当 長谷隆仁
東北大学大学院 環境科学研究科 浅沼宏 准教授	「表面波伝搬特性に関する基礎的研究」 地盤振動に含まれる表面波から、地下構造情報などの有用情報を効率的に抽出する方法を開発するために、伝搬特性に着目した理論的な検討を行う。	地質地盤・騒音担当 白石英孝
東京大学大学院 新領域創成科学研究科 須貝俊彦 教授	「地質地盤インフォメーションシステムを利用した県北部地域及び川越比企地域における地質構造の評価」 県北部地域及び川越比企地域における地質構造を平面的に評価・解析し、自然の地層中に含まれる各種化学元素の賦存量や地下水の水質形成機構を把握する。	地質地盤・騒音担当 八戸昭一
(独)産業技術総合研究所	「地質地盤インフォメーションシステムによる地域環境特性の解析」 地質地盤インフォメーションシステムに搭載されたボーリングデータを使用して埼玉県内の地質構造を評価し、当該地域固有の地域環境特性を解析する。	地質地盤・騒音担当 八戸昭一
(独)産業技術総合研究所 秋田大学	「埼玉県平野部の地下水環境に関する研究」 埼玉県平野部に設置されている地下水位・地盤沈下観測井ならびに各種水源井を対象として地下水温の観測・長期モニタリングを行うとともに、地下水試料を採取して主要溶存成分ならびに環境同位体を測定する。	地質地盤・騒音担当 八戸昭一 濱元栄起
東京大学 地震研究所 山野誠 准教授	「地下熱環境調査のための地下温度計測と長期モニタリング」 温暖化による地下熱環境の変化の調査を行い、低温地熱資源利用の推進に役立つ基礎データの取得と行うとともに、地球科学的研究のために深部の地下温度構造等の推定を行う。	地質地盤・騒音担当 濱元栄起
静岡県立大学 環境科学研究科 谷 晃 准教授	「大気中のオゾン濃度と二酸化炭素量の上昇が植物のテルペン類放出に及ぼす影響」 大気中のオゾン濃度と二酸化炭素濃度の上昇が植物からのテルペン類放出に及ぼす影響について検討する。	自然環境担当 三輪誠

相手方	研究課題名及び概要	担当者
早稲田大学 創造理工学部 榊原豊 教授	「遺伝子解析による魚類の生息範囲に関する研究」 淡水魚の生息範囲を特定する方法の開発を目的として、対象魚類の尾びれからDNAを抽出して捕獲位置ごとと比較することによって、生息範囲を特定する解析手法を確立する。	自然環境担当 金澤光
早稲田大学 昭和飛行機工業(株) (株)早稲田総研イニシアティブ (財)本庄国際リサーチパーク 研究推進機構	「地域普及型の電動マイクロバスシステムの開発と普及モデルの構築」 充電性能等を改善させつつ量産化が可能な電動マイクロバスシステムと非接触型給電装置の開発を行い、その特徴である利便性と機動性を活かして地方都市が抱える交通問題を解決すると同時に、ゼロエミッションでCO ₂ 排出の大幅な低減が可能な公共交通システムを開発し、その普及のための新しいビジネスモデルを提案する。	自然環境担当 増富祐司

(2) 大学・大学院からの学生の受入れ

共同研究等の実施に伴い大学・大学院から派遣された学生に研究指導を行った。また、大学からの依頼により実習生を受け入れ、研究員による研究実習を行った。

大学との共同研究、研究協力の実施に伴う学生の受入実績

所 属	数	摘 要
埼玉大学大学院理工学研究科 博士前期課程	1名	地圏科学研究センター 小口千明 准教授
埼玉大学大学院理工学研究科 研究生	1名	理工学研究科 河村清史 教授
埼玉大学大学院理工学研究科 博士前期課程	1名	理工学研究科 川本健 准教授
博士後期課程	1名	
修士課程	1名	
早稲田大学創造理工学部	1名	理工学術院 名古屋俊士 教授
早稲田大学創造理工学部	1名	理工学術院 榊原豊 教授
日本大学大学院理工学研究科 博士前期課程	2名	理工学部 吉田征史 専任講師
日本大学理工学部	2名	
茨城大学大学院理工学研究科 博士前期課程	1名	工学部 藤田昌史 講師
茨城大学工学部	2名	
神奈川大学理学部	1名	理学部 大石不二夫 教授
東京大学大学院新領域創成科学研究科 博士後期課程	1名	大学院新領域創成科学研究科 須貝俊彦 教授
静岡県立大学大学院生活健康科学研究科 修士課程	2名	環境科学研究所 谷 晃 准教授

実習生の受入実績

所 属	実 習 期 間
早稲田大学創造理工学部環境資源工学科 1名	平成21年 8月 6日～ 8月 7日
早稲田大学創造理工学部環境資源工学科 1名	平成21年 8月13日～ 8月15日
明星大学理工学部環境システム学科 1名	平成21年 8月 5日～ 9月 7日
東京学芸大学教育学部環境教育課程 1名	平成21年 8月20日～ 8月29日
成城大学法学部法律学科 1名	

(3)客員研究員の招へい

実績と経験を有する研究者を当センター客員研究員として招き、当センターで行っている調査・研究業務に対して研究指導や助言等を依頼した。

埼玉県環境科学国際センター客員研究員名簿

氏 名	所 属 ・ 役 職
伊豆田 猛	東京農工大学大学院共生科学技術研究院 教授
小口 千明	埼玉大学地圏科学研究センター 准教授
坂本 和彦	埼玉大学大学院理工学研究科 教授
櫻井 健	応用地質(株) 東京本社ジオテクニカルセンター
立尾 浩一	(財)日本環境衛生センター 東日本支局 環境工学部調査課 課長代理
橋本 俊次	(独)国立環境研究所 化学環境研究領域 有機環境計測研究室 主任研究員
水落 元之	(独)国立環境研究所 アジア自然共生研究グループ 主任研究員

(4)研究審査会の開催

当センターが実施する研究課題について、外部有識者で構成する埼玉県環境科学国際センター研究審査会を開催し、当センターの研究に対する審査及び助言を依頼した。

埼玉県環境科学国際センター研究審査会委員名簿

氏 名	所 属 ・ 役 職
榊原 豊	早稲田大学理工学術院 教授
坂本 和彦	埼玉大学大学院理工学研究科 教授
佐藤 茂夫	日本工業大学ものづくり環境学科 教授
角田 史雄	埼玉大学 名誉教授
戸塚 績	(財)日本環境衛生センター 酸性雨研究センター 技術顧問
細見 正明	東京農工大学大学院共生科学技術研究院 教授

5.6 国際共同研究

埼玉県環境科学国際センターは、4つの基本的機能の1つに国際貢献を位置付けている。その国際貢献の1つとして、海外の大学等の研究機関と国際共同研究を実施している。共同研究・研究協力を実施した主なものは次のとおりである。

海外研究機関との共同研究・研究協力実績一覧

相手方	研究テーマ等	担当者
上海交通大学環境科学与工程学院 孔海南 教授	「生態工学を活用した污水处理・水環境修復技術開発」 土壌、人工湿地等を用いた、主として生活系排水の処理技術について、実用性に重点を置いた研究開発を行う。	水環境担当 木持謙 化学物質担当 王効挙
上海交通大学環境科学与工程学院 朱南文 教授	「有害化学物質により汚染された土壌・底質などの修復技術開発」 有用微生物を中心に活用し、物理的や化学的方法と組み合わせることで環境汚染現場修復に応用できる技術の開発を行う。	化学物質担当 王効挙 水気環境担当 木持謙
遼寧大学環境学院 李法雲 教授	「汚染土壌における生物修復に関する研究」 工場及び農地が混在する地域における汚染土壌の特徴の解明、汚染土壌を浄化する能力が高い植物の選抜と浄化機構の検討を行う。	化学物質担当 王効挙
上海大学環境与化学工程学院 呂森林 教授	「大気中の微小粒子の挙動」 上海市内および郊外で、粒径別に採取した粒子状物質(粗大粒子、微小粒子及び超微小粒子)中に含まれる重金属に着目し、各成分の濃度および地点、粒径別の特徴について、検討を行うとともに日本(都心郊外)との比較を行う。	大気環境担当 米持真一 化学物質担当 王効挙
濟州大学校海洋科学部 李容斗 教授	「生態工学的手法による浅い汚濁湖沼の水質改善」 二枚貝や沈水植物など在来生物を活用した、主として浅い小規模な湖沼の水質改善について検討を行う。	水環境担当 田中仁志

5.7 外部資金の活用

(1) 調査・研究

国や独立行政法人等の研究資金(競争的資金を含む)を活用して次の調査研究を実施した。

外部資金活用による調査・研究一覧

研究費配分機関等	研究課題名及び概要	担当機関(者)名
環境省 地球環境研究総合 推進費	「気温とオゾン濃度上昇が水稻の生産性におよぼす複合影響評価と適応方策に関する研究」(平成20～22年度) 国内外の主要水稻品種の収量・品質におよぼす温度とオゾンの複合影響を実験的に解明するとともに、影響評価のための分子マーカーを探索し、評価手法の開発を行う。	研究担当者:米倉哲志、 嶋田知英、三輪誠 (財)電力中央研究所(代表)、(独)国立環境研究所との共同研究
環境省 環境研究・技術開発 推進費	「生態工学技法としての沈水植物再生による湖沼の水環境回復と派生バイオマスリサイクル統合システムの開発」(平成19～21年度) 沈水植物を利用した持続可能な水環境回復のために、沈水植物の群落再生手法、水質浄化機能の定量化、派生バイオマスの回収手法および有用資源としてのリサイクル技術を開発し、地域に適した地産地消型システムを確立する。	研究担当者:田中仁志 見島伊織、池田和弘 柿本貴志、須藤隆一 福島大学(代表)、 東北大学、(株)フジタとの 共同研究
環境省 環境研究・技術開発 推進費	「ゼオライトろ床と植栽を組み合わせた里川再生技術の開発」(平成21～23年度) ゼオライト成形体と植物を活用し、水質浄化施設とビオトープの長所を組み合わせ強化した、里川再生技術を研究開発する。その際、低コスト・低エネルギー消費を前提とし、水質浄化特性・浄化機構の解析と浄化性能向上、地域住民等で対応可能な浄化施設の維持管理技術の構築と検証、魚類を中心とした水生生物の生息・産卵場所の創造と導入効果の解析、観点から研究開発を行う。	代表研究者:木持謙 研究担当者:金澤光 早稲田大学、真下建設 (株)との共同研究
環境省 循環型社会形成推進 科学研究費補助金	「破砕選別による建設系廃棄物の地域循環システムの設計に関する研究」(平成19～21年度) 建設混合廃棄物を土木資材としてリサイクルする場合の課題を整理し、今後の方向性について検討した。破砕選別施設に搬入された混合廃棄物に関する発生源情報や見かけ比重等の目視情報、色彩等の外観情報と選別残渣の化学分析結果を比較検討し、残渣の化学成分に影響を与える要因を抽出した。	研究担当者:渡辺洋一 代表研究者:山田正人 (独)国立環境研究所 他研究機関所属研究者 8名
環境省 地域産学官連携環境 先端技術普及モデル 策定事業	「電動バス実証試験によるビジネスモデルの策定及びCO ₂ 削減効果の検証」(平成21年度) 電動バスを埼玉県及び全国へ展開した場合のCO ₂ 削減効果を算出する。CO ₂ 削減効果の算出は、①ディーゼルバスから電動バスに代替することによる効果、②モーダルシフトにより乗用車から電動バス利用へ代替される効果、③埼玉県及び全国へ展開した場合の波及効果、の3段階で行う。	研究担当者:増富祐司 早稲田大学(代表)、 (財)本庄国際リサーチパーク研究推進機構、昭和飛行機工業(株)との共同研究

研究費配分機関等	研究課題名及び概要	担当機関(者)名
文部科学省 科学研究費補助金 (若手研究(B))	「紫外線吸収剤の水環境中挙動の解析及び水生生物に対するリスク評価に関する研究」(平成20～21年度) 水環境中の生態系への悪影響が懸念されている紫外線吸収剤について、水環境中の濃度を測定する方法を確立するとともに、水環境における挙動や分布、さらには水生生物への蓄積特性を明らかにし、紫外線吸収剤の水生生物へのリスクについて検討を行う。	研究代表者: 亀田豊
文部科学省 科学研究費補助金 (若手研究(B))	「電気化学的処理法を用いた尿中医薬品の発生源処理法の開発」(平成20～21年度) 人や動物に対して投与された医薬品が環境中に排出され、人や生態系に対する影響が危惧されている。本研究では電解処理により尿中に排泄された医薬品を処理する要素技術を開発し、発生源対策の手法を提供することを目指す。	研究代表者: 柿本貴志
文部科学省 科学研究費補助金 (若手研究(B))	「大気エアロゾル中炭素成分測定の向上とアジアにおける越境大気汚染観測への適用」(平成20～21年度) アジアの経済発展に伴って増大する越境大気汚染の主要な汚染物質である大気エアロゾル中の炭素成分の測定法における様々な課題を検討し、それを観測に反映することで、越境汚染を的確に評価する基礎資料となるデータを得て、越境汚染の動態解明に寄与する。	研究代表者: 長谷川就一
文部科学省 科学研究費補助金 (若手研究(B))	「最終処分場の適正管理のための廃棄物の電気的特性評価方法の確立」(平成21～22年度) 非破壊で地下構造を推定できる比抵抗探査を用いて、廃棄物最終処分場における探査の実施と室内モデル実験を行い廃棄物の物性が比抵抗値に与える影響を評価し、処分場での比抵抗探査結果の定量的評価手法の確立を目指す。	研究代表者: 磯部友護
(独)日本学術振興会 科学研究費補助金 (基盤研究(B))	「湖沼における水質浄化のための二枚貝の持続的生息に必要な環境因子に関する研究」(平成18～21年度) 二枚貝はろ過水量が大きいことから、水質浄化に寄与していると考えられる。湖沼において水質が中長期的に安定化するために、二枚貝の生息場所として必要な底質環境を二枚貝の生活史に着目して評価する。	研究代表者: 田中仁志 研究分担者: 木持 謙
(独)日本学術振興会 科学研究費補助金 (基盤研究(C))	「土壌地下水汚染評価支援システムの構築」(平成19～21年度) 地層中に含まれる自然由来重金属類の分布状況を広域的に把握することを目的とした地盤情報データベースを開発する。また、地質調査ボーリング時に採取された既存地質試料の汚染評価への利用可能性を検討する。	研究代表者: 八戸昭一 研究分担者: 石山高
(独)日本学術振興会 科学研究費補助金 (基盤研究(C))	「大都市とその郊外におけるサブミクロン粒子の特徴と磁気的特性」(平成21～23年度) 粒子状物質中に含まれる重金属は、発生源に関する情報を知る重要な手がかりとなる。本課題では、土壌由来の粒子の影響を大幅に低減できるサブミクロン粒子中の金属成分に着目し、磁気的な性質に着目した評価を行う。	研究代表者: 米持真一 研究分担者: 梅沢夏実、 王効挙

研究費配分機関等	研究課題名及び概要	担当機関(者)名
(独)日本学術振興会 科学研究費補助金 (特別研究員奨励費)	「バイオ燃料用資源植物を活用した汚染土壌の有効利用と修復システムの構築」(平成20～21年度) 汚染土壌を回復可能な資源とし、収益性の高いバイオ燃料用資源植物が有する汚染物質の吸収・蓄積・分解などの機能を活用し、汚染土壌の有効利用と効率的浄化を同時に実現できる高収益型修復技術体系の構築を行う。	研究代表者:王効挙
(財)新技術開発財団 植物研究助成	「環境状態評価のための統計干渉法による植物のナノメータ形態応答計測装置の開発」(平成20～21年度) 統計干渉法を環境影響下の植物の生長計測に応用し、秒オーダーの極短時間での植物の生長応答をサブナノメータの精度で計測する装置の実用化を目指す。計測レンジの拡大および計測ヘッドの小型化をおこなう。	研究代表者:門野博史
(財)住友財団 環境研究助成	「光干渉法による極短時間植物ナノ動態計測に基づく環境汚染評価法の開発」(平成20～21年度) 超高感度な伸縮計測法である統計干渉法を用いて、オゾンなど環境汚染物質が植物の生長挙動に与える影響を明らかにする。これにより、環境汚染状況を植物を通して推定するツールとしての可能性を評価する。	研究代表者:門野博史
(独)国立環境研究所	「水平型浸透性反応層による有害物質捕捉技術の確立と長期性能評価」(平成20～21年度) 水平型浸透性反応層(HPRB)を設置した大型模擬埋立層を用いて、廃棄物から溶出する有害物質の捕捉効果の継続性を確認した。また、HPRBの有効性について、LCA評価等を実施した。	研究担当者:渡辺洋一、 川寄幹生
(独)科学技術振興機構	「気候変動を考慮した農業地域の面的水管理・カスケード型資源循環システムの構築」(平成21～26年度) バイオマス資源を水質汚染源にすることなく、適正かつ効果的に循環させるために、バイオマスへの適用技術を最適に組み合わせ、水系に排出される負荷が最小となるような技術・システムを構築する必要がある。そのため、バイオマス資源の循環利用に係る要素技術・システムおよび流通に関するコスト、環境負荷等の評価手法を開発する。	研究担当者:長谷隆仁 高知大学(代表)、 北海道大学、(独)国立環境研究所、岡山大学、北見工業大学、京都大学、鳥取大学 との共同研究
(財)河川環境管理財団	「河川及び湖沼の水圏生態系における紫外線吸収剤の汚染状況と食物網内の生物蓄積性に関する研究」 (平成21年度) 水環境中の生態系への悪影響が懸念されている紫外線吸収剤について、水生生物中濃度の測定方法を確立し水生生物中の蓄積状況を把握するとともに炭素・窒素安定同位体比等を用いて食物網を介した生物蓄積特性を評価する。	研究代表者:亀田豊

(2)国際協力

環境科学国際センターが、中国江蘇省で上海交通大学及び上海大学と実施している、環境国際貢献プロジェクト事業について、(財)自治体国際化協会の自治体国際協力促進事業(モデル事業)の助成金も活用している。

5. 8 表彰

大気環境学会 創立50周年記念表彰 地域功労賞

小川 和雄

表彰理由

地方自治体の環境研究所(埼玉県公害センター、埼玉県環境科学国際センター)において、長年にわたり沿道緑地帯による大気汚染低減効果や樹木衰退現象等に関する研究で地域行政に貢献する傍ら、地域の環境意識の向上や学会活動に貢献した。

大気環境学会 創立50周年記念表彰 地域奨励賞

松本 利恵

表彰理由

地方自治体の環境研究所において大気環境に関する研究に従事し、三宅島の火山ガスの動態や産業廃棄物焼却施設が沈着物の組成に及ぼす影響などについて研究成果を上げた。

水文・水資源学会論文奨励賞

増富 祐司

表彰理由

Hydrological Processes, Vol.23, pp.572-584, 2009 において発表した“Development of highly accurate global polygonal drainage basin data” Yuji Masutomi, Yusuke Inui, Kiyoshi Takahashi and Yuzuru Matsuokaが、水文・水資源学の発展に独創性および将来性を持って寄与したものと認められ、平成21年度水文・水資源学会論文奨励賞が授与された。

全環研関東甲信静支部 支部長表彰

山口 明男

表彰理由

永年にわたり、河川の汚染調査、工場事業場の排水処理の研究及び改善指導や水質分析に取り組み、埼玉県の河川の汚濁防止に貢献してきた。また、土壌及び地下水汚染の調査や浄化対策に積極的に取り組み、原因究明に成果を上げたほか、環境保全に係る国際貢献業務の推進に尽力するなどの功績が認められ、表彰された。